

第4章：町民の生活交通に関する意識

1. アンケート調査の概要

1) 調査の方法

アンケート調査票に主旨説明書を添えて郵送法により実施。

2) 対象者

平成 29 年 10 月末時点における安田町の全ての世帯主 1,296 人

3) 実施スケジュール

11 月 10 日 安田郵便局よりアンケート調査票を発送。

11 月 27 日 返送締め切りとし、当日消印を有効とした。実際には平成 30 年 1 月到着分（入力作業に支障を及ぼさない範囲として）までを有効回収とした。

4) 回収率

アンケート調査票の回収率は、43.4%となっている。

送付数	1,296 通
回収数	563 通
回収率	43.4%

2. アンケート調査の結果

次頁より、アンケート調査結果をとりまとめる。

1) 回答者の属性

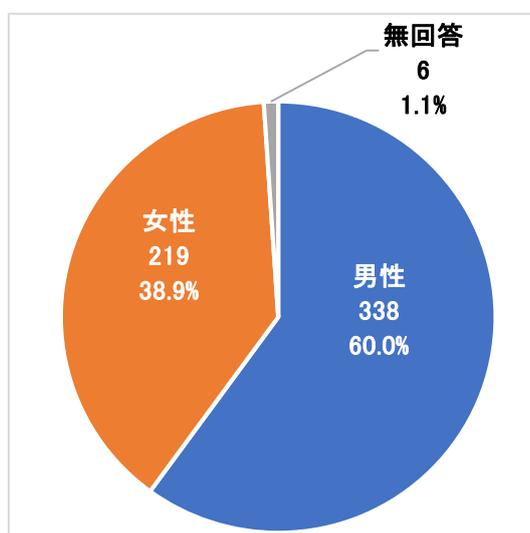
(1) 回答者の性別

回答者の性別は、「男性」が338人(60.0%)、「女性」が219人(38.9%)、となっており、男性が女性に比べて約1.5倍となっている。

平成27年国勢調査での人口比率では、12:13(男性:1,256人、女性:1,375人)と女性の方が多くなっているが、これはアンケート調査票送付対象者が世帯主であったことが主な要因であるものと考えられる。

無回答は6人(1.1%)であった。

図：回答者の性別



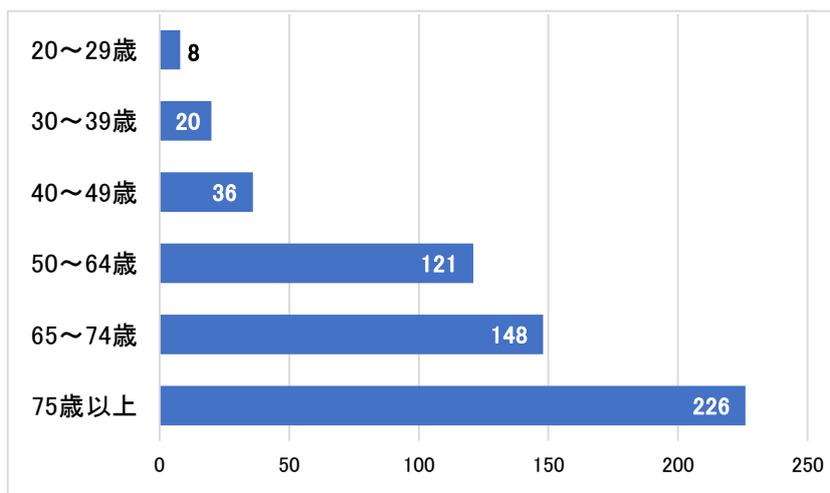
(2) 回答者の年齢層

回答者の年齢層では、「75歳以上」が226人で全体の約四分の一である。

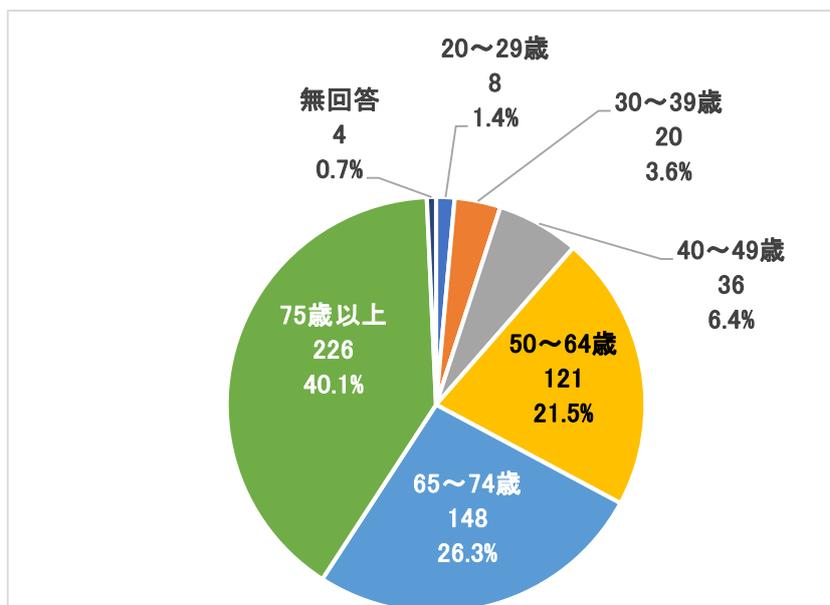
全体で50歳を超える人の割合が87.9%となっている。

最も少ないのが「20～29歳」となっており、8人で全体の1.4%程度となっている。

図：回答者の年齢層



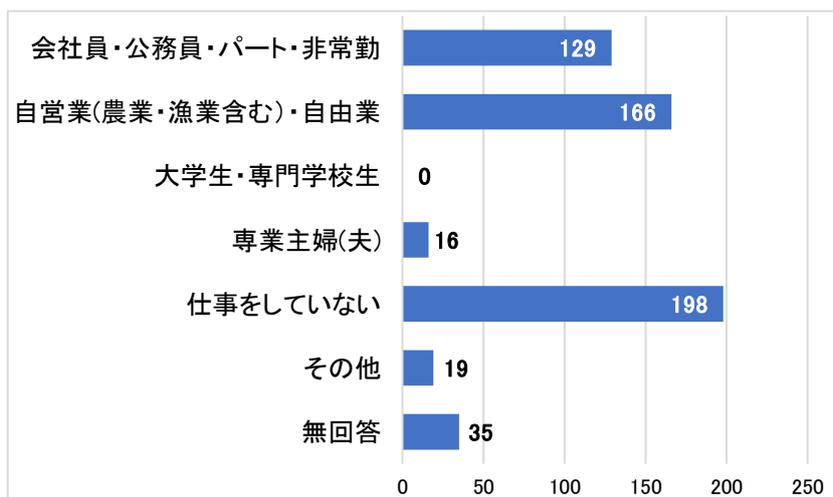
図：回答者の年齢層（円グラフ）



(3) 回答者の職業

回答者の職業は、「仕事をしていない」が198人と最も多く、続いて「自営業（農業・漁業含む）・自由業」が166人、「会社員・公務員・パート・非常勤」が129人と続いている。

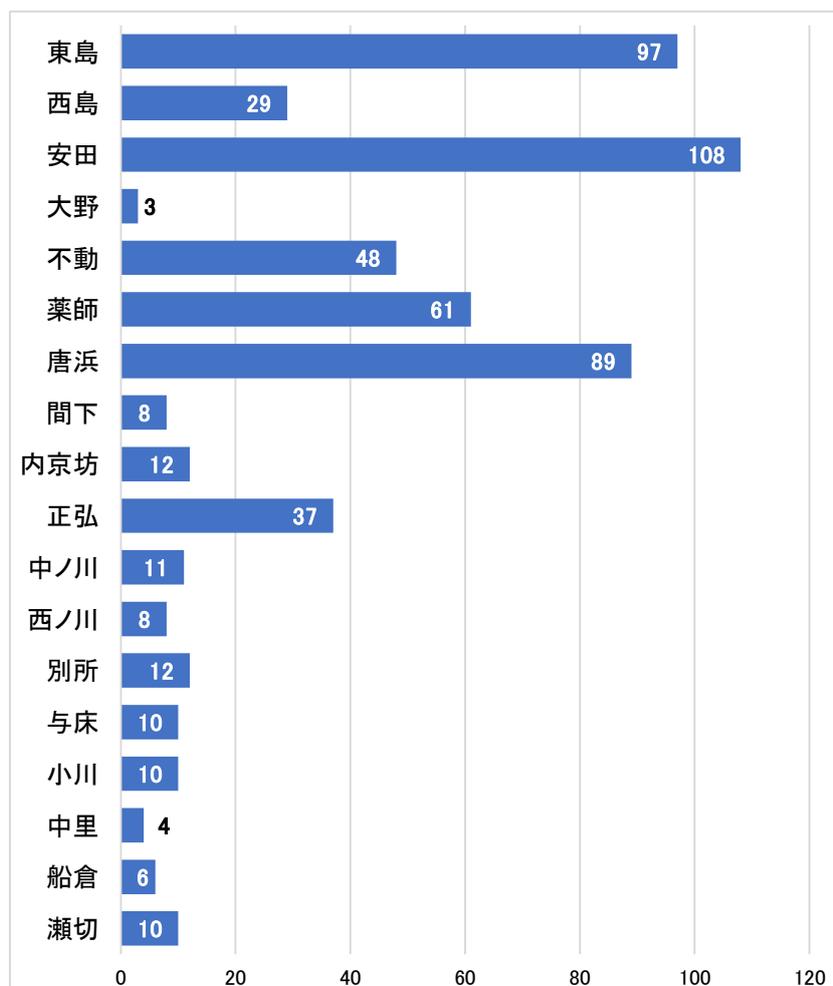
図：回答者の職業



(4) 回答者の暮らす地区

回答者の居住地区では、「安田地区」が最も多く 108 人、「東島地区」97 人、「唐浜地区」89 人と続いている。

図：回答者の暮らす地区

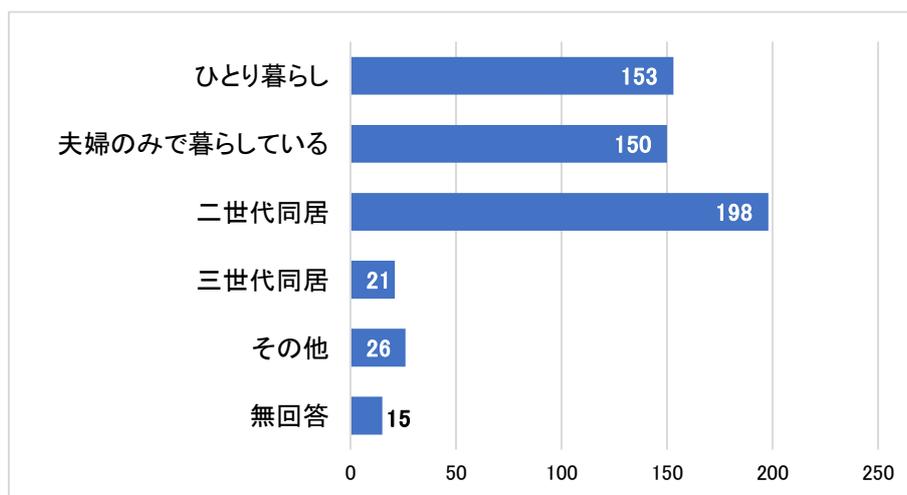


(5) 家族構成

回答者の家族構成を見てみると、「二世代同居」が198人、「ひとり暮らし」が153人、「夫婦のみで暮らしている」が150人と続いている。

「その他」の内訳を見てみると、兄弟・姉妹と暮らしている人や、他人との共同生活などが記入されている。

図：家族構成



【その他】

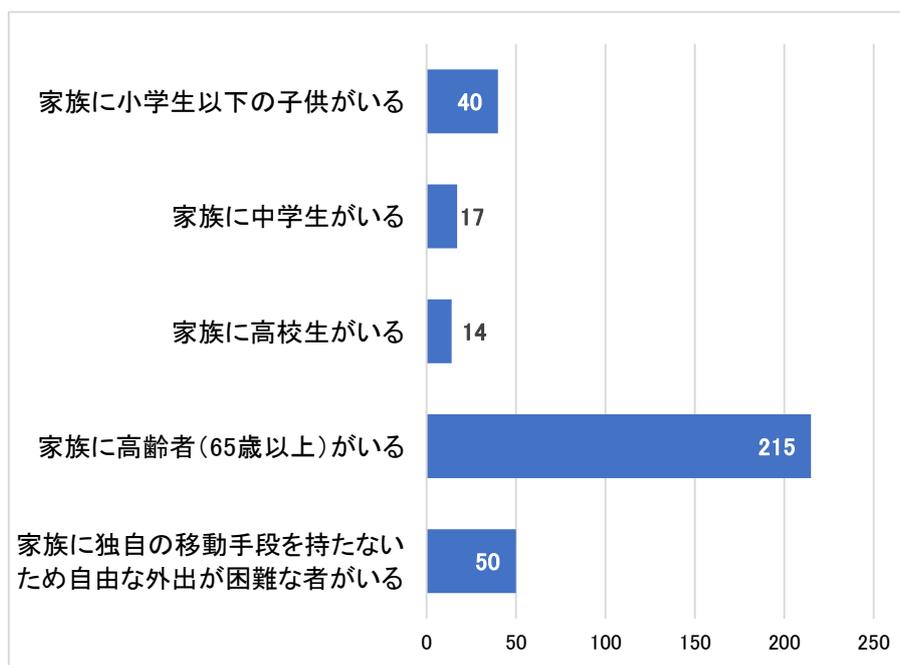
- ・彼女
- ・3人兄弟
- ・妹・姪と3人暮らし
- ・姉・長女の3人暮らし
- ・夫婦と次男の息子
- ・祖母、孫
- ・夫婦と妹

(6) 家族の概要（複数回答可）

一般的に、移動手段の確保に困難を来すと予測される高齢者や独自の移動手段を持たない人、子どもと同居しているかどうかを家族の概要としてうかがった。

「無回答（＝本設問には該当しない）」を除く結果では、「家族に高齢者（65歳以上）がいる」が215人で最も多く、続いて「家族に独自の移動手段を持たないため自由な外出が困難な者がある」が50人、「家族に小学生以下の子どもがいる」が40人と続いている。

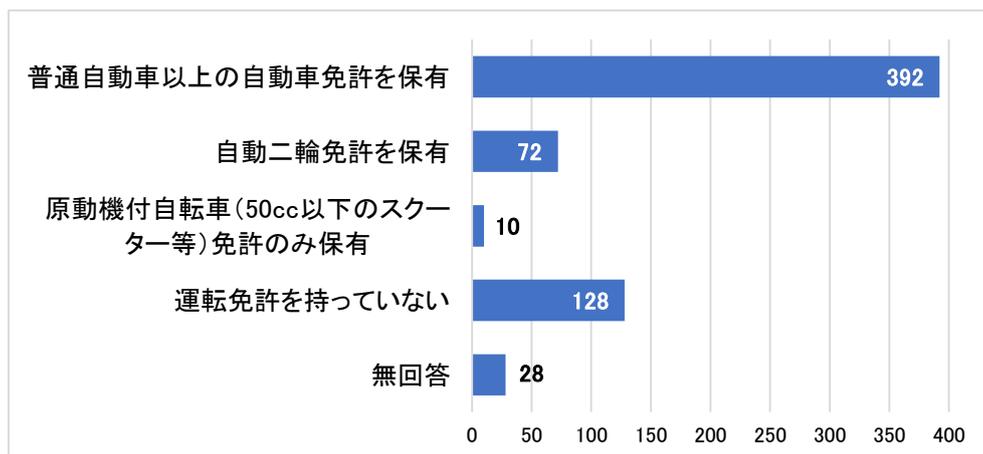
図：同居家族の概要（複数回答可）



(7) 自動車と運転免許の所持について（複数回答可）

自動車などの運転免許の所持については、「普通自動車以上の自動車免許を保有」している人が 392 人、「(運転免許を) 持っていない」が 128 人、「自動二輪免許を保有」が 72 人、「原動機付自動車 (50cc 以下のスクーター等) 免許のみ保有」が 10 人となっている。

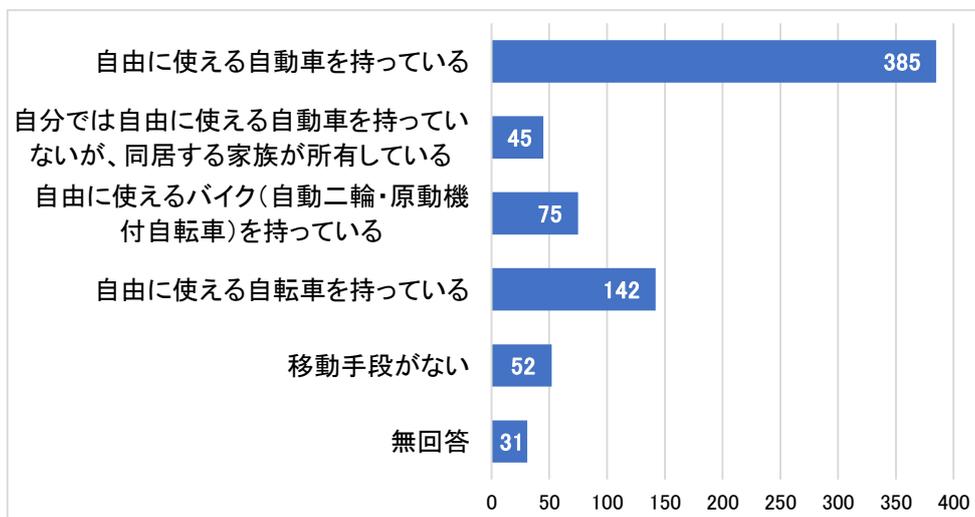
図：自動車と運転免許の所持（複数回答可）



(8) 所持する移動手段について（複数回答可）

自動車などの移動手段の所持については、「自由に使える自動車を持っている」が 385 人、「自由に使える自転車を持っている」が 142 人、「自由に使えるバイク (自動二輪・原動機付自転車) を持っている」が 75 人、「移動手段がない」が 52 人、「自分では自由に使える自動車は持っていないが、同居する家族が所有している」が 45 人と続いている。

図：所持する移動手段



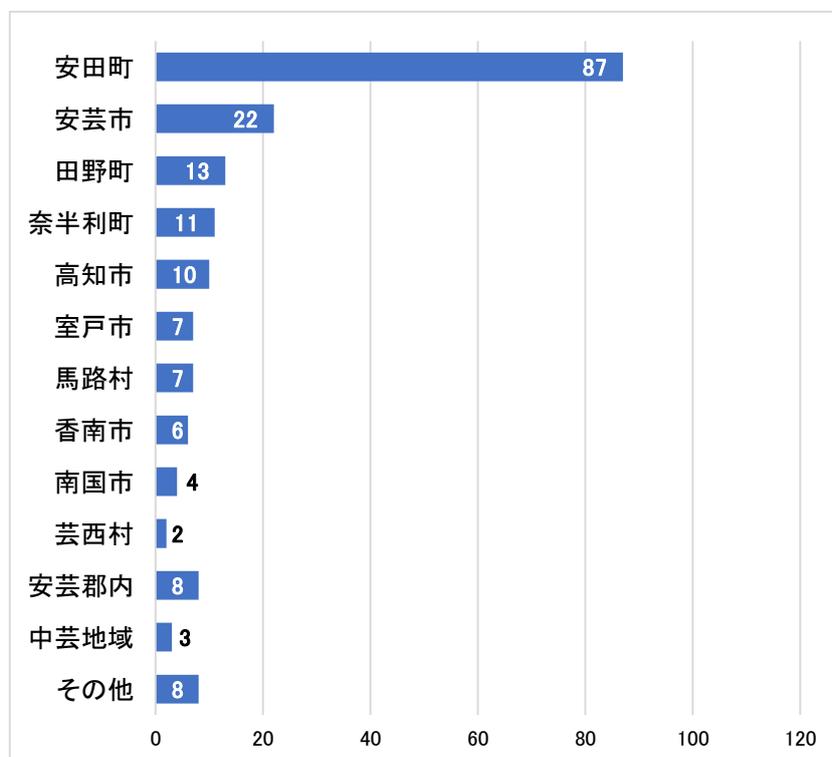
2) 回答者自身の日常の移動について

(1) 通勤

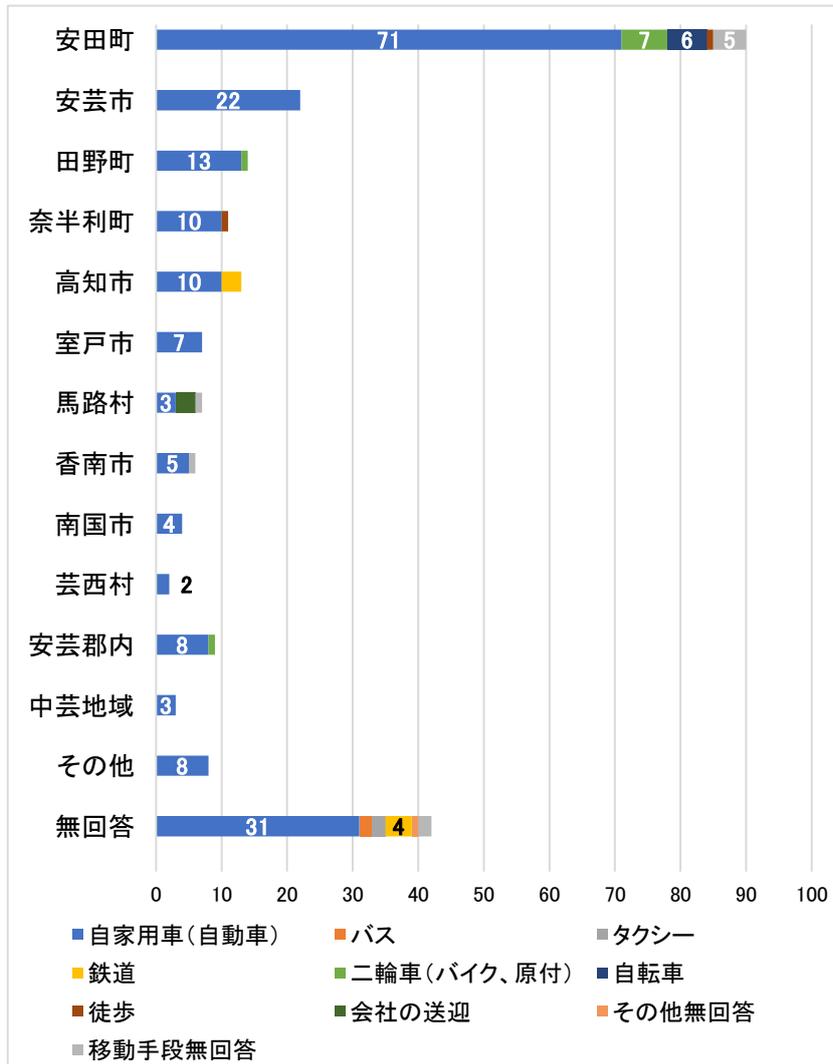
日常の移動について、通勤（回答者属性より学生はいない）している人は合計 226 人（行き先無回答を含む）となっている。通勤の目的地の内訳は「安田町内」に 87 人、「安芸市」に 22 人、「田野町」に 13 人、「奈半利町」に 11 人と続いている。「その他」については単純に“仕事場”や“あちこち”などと記入されており具体的な自治体が判別できないものである。

通勤の目的地とその移動手段をクロス集計すると、大部分が自動車を利用していることが分かるが、安田町内に通勤している人の中には自動二輪車や自転車など自動車以外の移動手段を利用している人が比較的いることが分かる。

図：通勤の目的地のある自治体



図：通勤の目的地とその移動手段

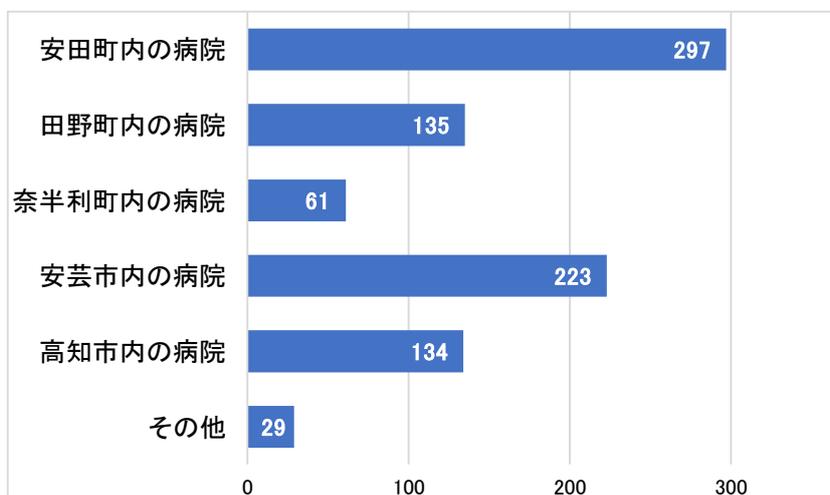


(2) 通院（複数回答）

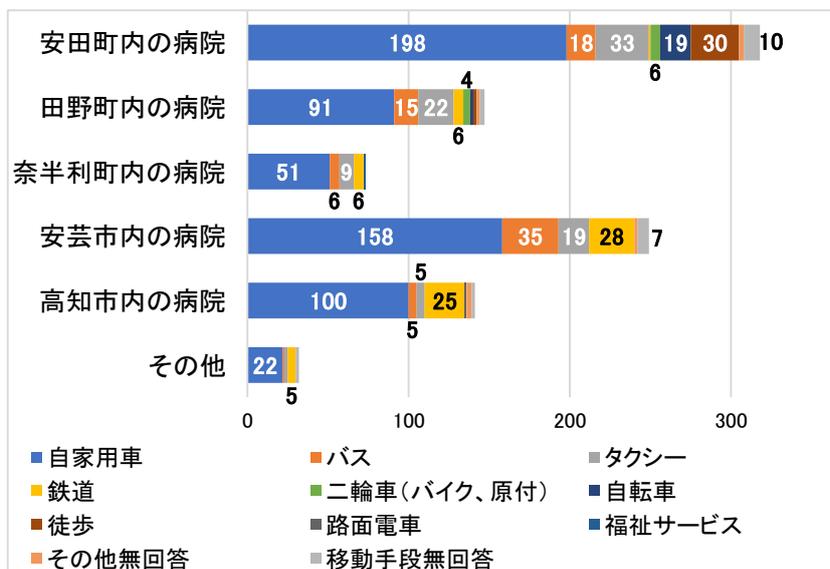
日常の通院について市町村単位で質問したところ、「安田町内の病院」が297人、「安芸市内の病院」が223人、「田野町内の病院」が135人、「高知市内の病院」が134人、「奈半利町内の病院」が61人と続いている。「その他」には数多くの病院や診療所が記入されている。

よく行く病院施設への移動手段をクロス集計すると、最も多いのは車となっている。しかし、「安田町内の病院」ではタクシーや徒歩が他と比べて比較的多くなっており、「安芸市内の病院」へはバス、鉄道が比較的多く、「高知市内の病院」へは車に次いで鉄道が多くなっている。

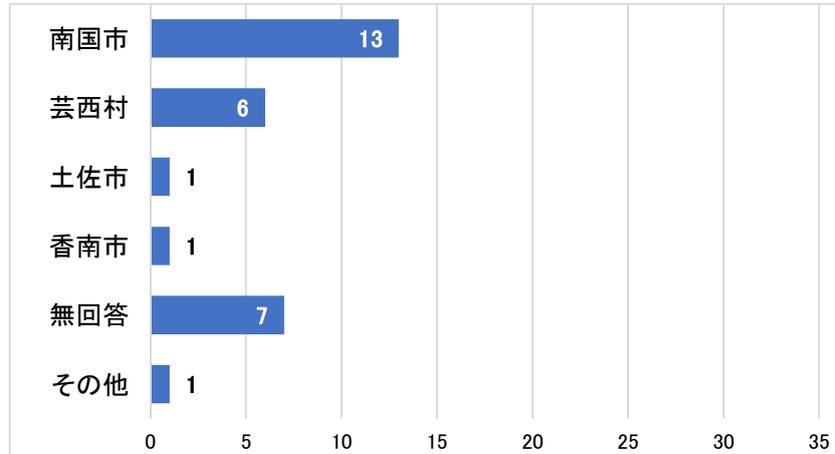
図：よく行く病院施設



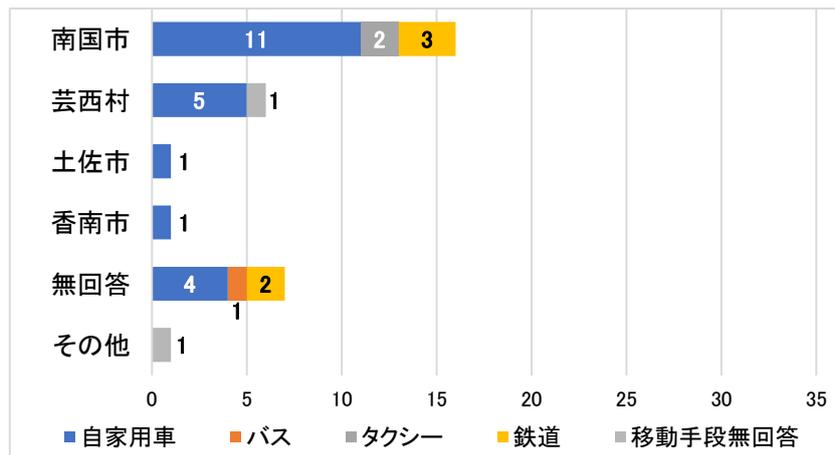
図：よく行く病院施設への移動手段



図：よく行く病院施設（その他）の所在地



図：よく行く病院施設（その他）への移動手段



通院に係る時間について、自宅を出発する時間と自宅に戻る時間を質問したところ、独自の移動手段を持たない人（「仕事をしていない」と回答し、かつ「自由に使える自動車を持っていない」か「移動手段を持っていない」と回答した人）の通院に出かける時間帯は、午前中が多いことが分かる。

逆に通勤者も含めて見てみると、午後にも通院時間帯が現れていることが分かる。

表：通勤者を含めた通院に係る時間 [出発：自宅を出る時間／帰着：自宅に戻る時間]

通院		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	無回答
	出発 帰着		13	64	112	118	58	21	14	28	37	20	17	6		371
8時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9時	16	0	0	2	10	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10時	59	0	0	6	21	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11時	80	0	2	12	28	21	15	2	0	0	0	0	0	0	0	0
12時	105	0	5	14	23	32	23	7	0	0	0	0	0	0	0	1
13時	34	0	3	3	10	11	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0
14時	45	0	1	13	9	5	5	2	2	7	1	0	0	0	0	0
15時	49	0	2	7	6	5	2	0	1	10	16	0	0	0	0	0
16時	49	0	0	2	3	4	2	2	4	4	13	14	1	0	0	0
17時	39	0	0	4	0	2	3	0	4	6	4	2	12	2	0	0
18時	22	0	0	1	1	2	3	1	1	1	2	4	2	4	0	0
19時	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
20時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
22時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	378	0	0	0	1	1	1	3	1	0	0	0	1	0	0	370

表：独自の移動手段を持たない人の通院に係る時間

[出発：自宅を出る時間／帰着：自宅に戻る時間]

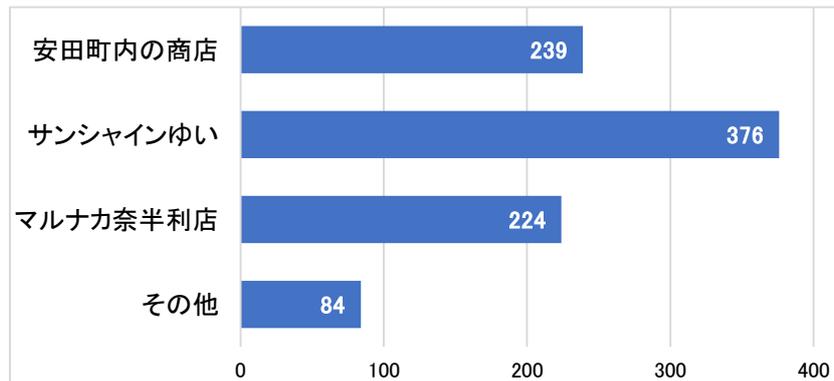
非通勤者・移動手段なし		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	無回答
	出発 帰着		1	17	21	16	8	2	1	6	4		1			46
8時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9時	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10時	9	0	0	2	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11時	14	0	0	1	7	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12時	22	0	0	6	5	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
13時	5	0	1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14時	5	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15時	8	0	0	2	1	1	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
16時	5	0	0	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
17時	3	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
18時	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0
19時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	47	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	46

(3) 買い物（複数回答）

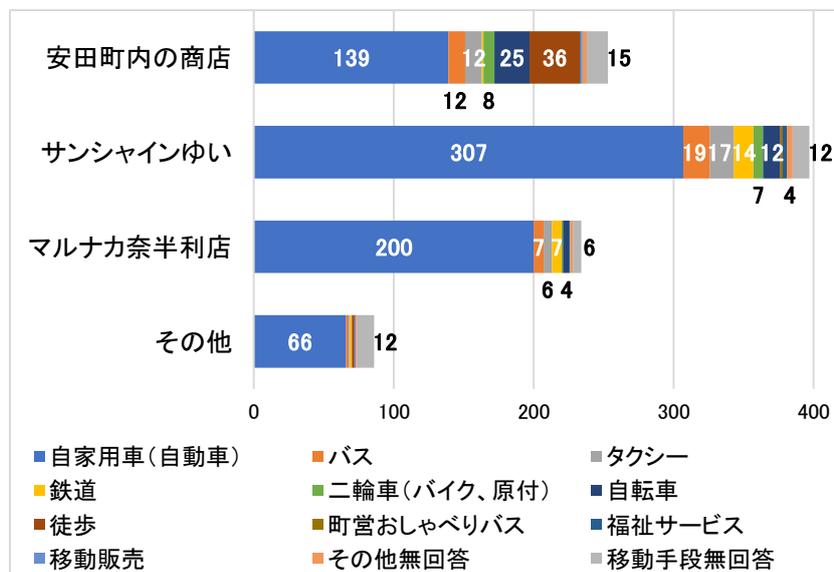
日常の買い物については、「サンシャインゆい」が376人で最も多く、次いで「安田町内の商店」が239人、「マルナカ奈半利店」が224人と続いている。

移動手段を見てみると、「安田町内の商店」には自転車や徒歩で行く人も多い。

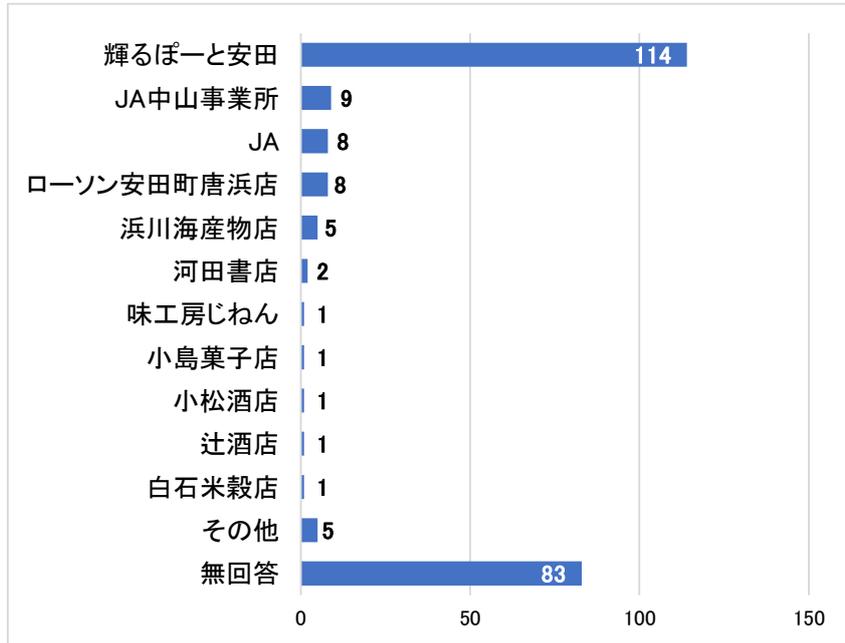
図：よく行く商業施設



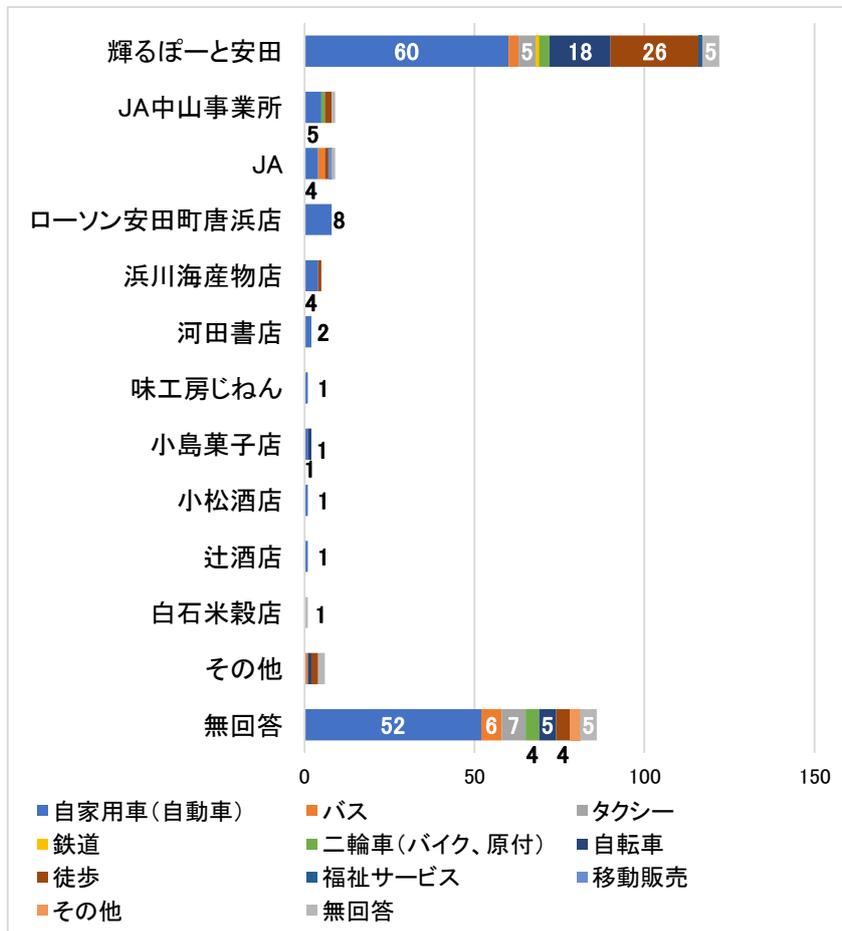
図：よく行く商業施設への移動手段



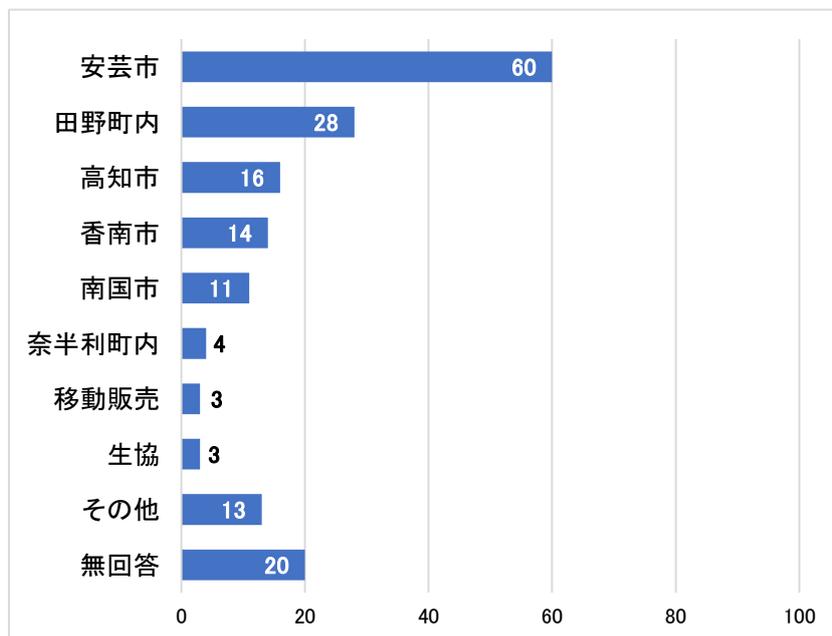
図：よく行く商業施設（安田町内の商店の内訳）



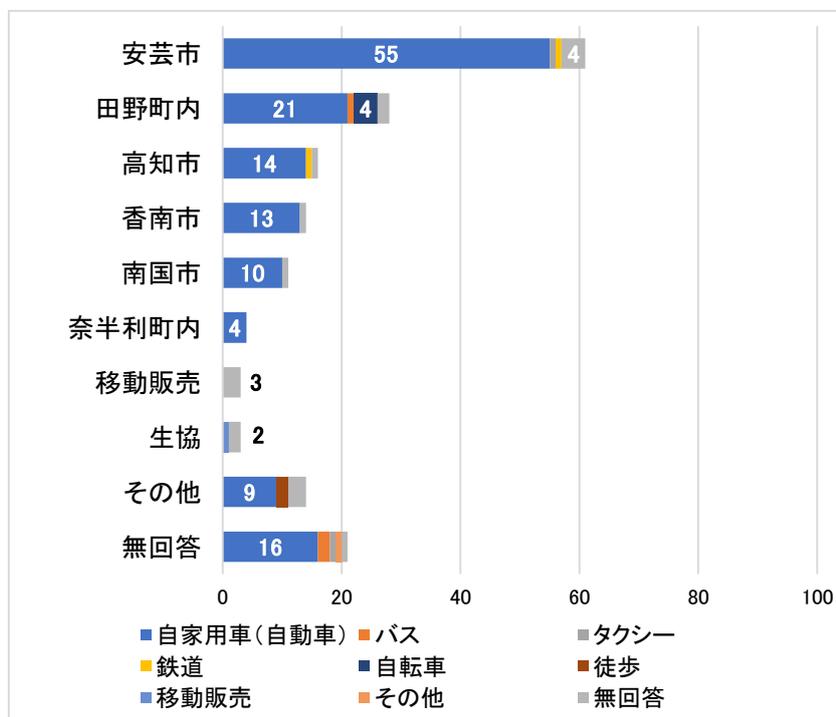
図：よく行く商業施設（安田町内の商店）への移動手段



図：よく行く商業施設（その他）の所在地



図：よく行く商業施設（その他）への移動手段



買い物に係る時間について、自宅を出発する時間と自宅に戻る時間を質問したところ、独自の移動手段を持たない人（「仕事をしていない」と回答し、かつ「自由に使える自動車を持っていない」か「移動手段を持っていない」と回答した人）が買い物に出かける時間帯は、午前中が多いことが分かる。

逆に通勤者も含めて見てみると、午後にも通院時間帯が現れている。

買い物に係るおおよその所要時間は、1時間から2時間程度が多くなっている。

表：通勤者を含めた買い物に係る時間 [出発：自宅を出る時間／帰着：自宅に戻る時間]

買い物		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	無回答	
	出発 帰着		1	4	19	69	110	51	19	37	26	26	28	44	24	11	2	2		538	
6時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7時	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8時	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9時	13	0	0	0	4	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10時	25	0	0	0	6	13	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11時	92	0	0	2	2	26	53	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12時	79	0	0	0	4	10	34	26	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
13時	26	0	0	0	1	4	2	7	7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14時	33	0	0	0	0	2	6	1	3	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15時	29	0	0	0	0	1	2	0	4	9	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
16時	33	0	0	0	0	1	2	2	0	1	10	11	6	0	0	0	0	0	0	0	
17時	38	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	11	19	2	0	0	0	0	0	1	
18時	43	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	2	3	25	8	0	0	0	0	1	
19時	29	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	11	13	3	0	0	0	0	
20時	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	4	1	0	0	1	
21時	11	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4	1	2	0	0	
22時	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	
23時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
24時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	543	0	1	0	0	1	1	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	534

表：独自の移動手段を持たない人の買い物に係る時間

[出発：自宅を出る時間／帰着：自宅に戻る時間]

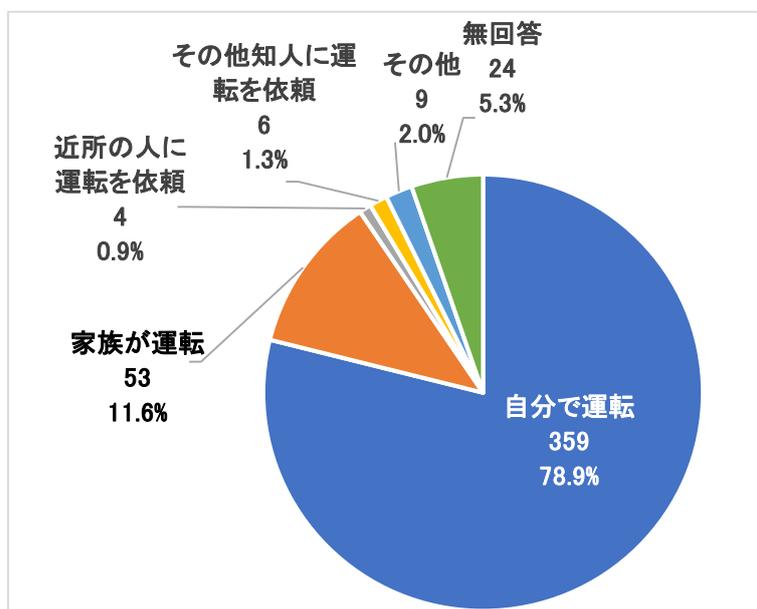
買い物		5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	無回答	
	出発 帰着				3	9	12	10	2	2	4										58
6時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9時	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10時	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11時	16	0	0	0	0	6	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12時	13	0	0	0	2	0	4	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
13時	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14時	3	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15時	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
16時	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
17時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
18時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
19時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
20時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
21時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
22時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
23時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
24時		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	60	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58

3) 日常的に自家用車を利用している人の概要

(1) 自家用車の利用形態

先の間で日常的な移動で車を使うと回答した人の内、「自分で運転」が 359 人(78.9%)、「家族が運転」が 53 人(11.6%)となっており、「近所の人に運転を依頼」が 4 人(0.9%)、「その他知人に運転を依頼」が 6 人(1.3%)となっている。「その他」には「同居していない子供の運転」や「組合の車」、「会社の人運転」等があげられた。

図：自家用車の利用形態



【その他】

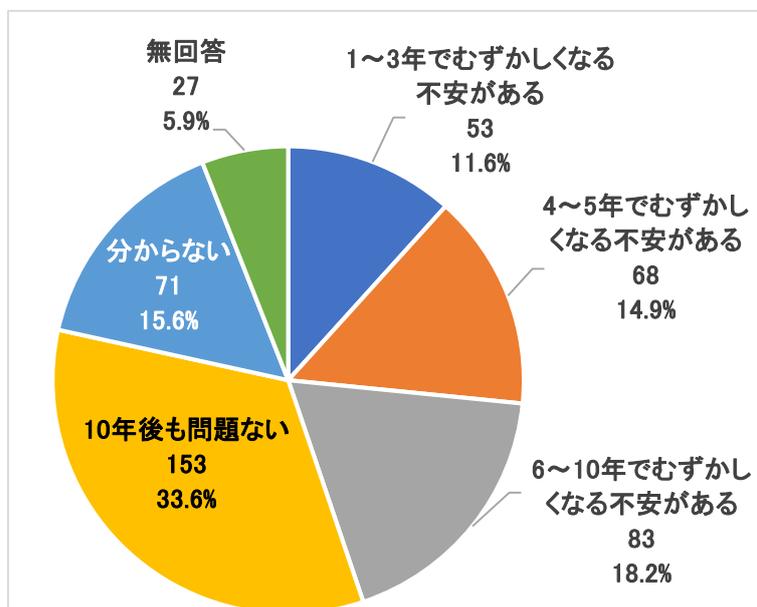
- ・同居していない息子（娘）の運転
- ・組合の車
- ・会社の人運転

(2) 自家用車利用の将来について

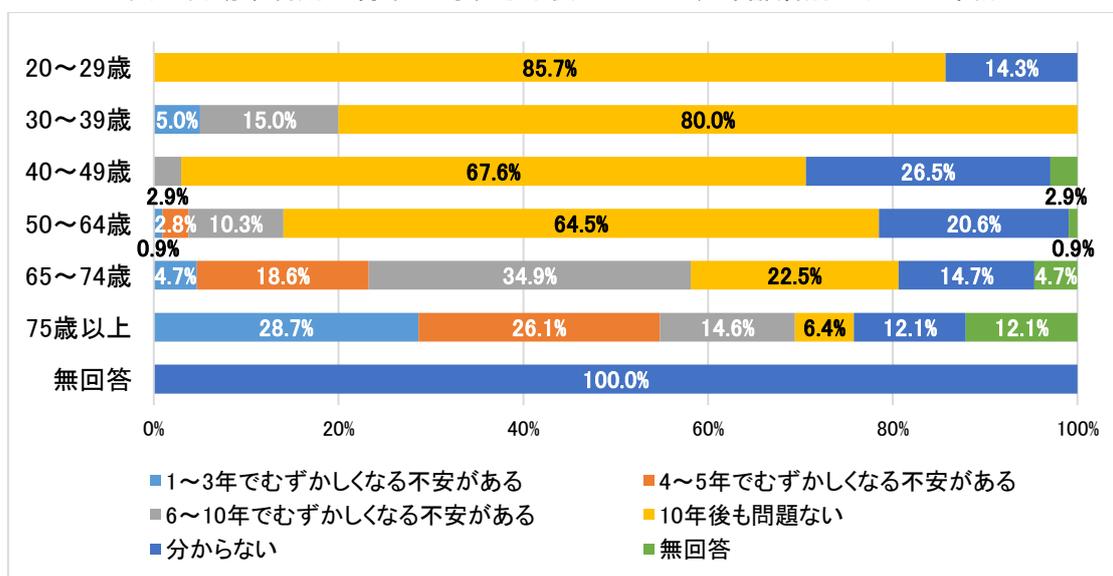
日常的に運転している（してもらっている）車の運転について、近い将来について不安がないかと聞いてみたところ、「10年後も問題ない」が153人（33.6%）で最も多く、「6～10年でむずかしくなる不安がある」が83人（18.2%）、「分からない」が71人（15.6%）、「4～5年でむずかしくなる不安がある」68人（14.9%）と続いている。

10年以内に車の運転がむずかしくなる不安を抱えている人は204人（44.7%）いる。また、回答を年齢層別にクロス集計すると、高齢な人ほど不安が大きいことがわかる。

図：自家用車利用の将来について



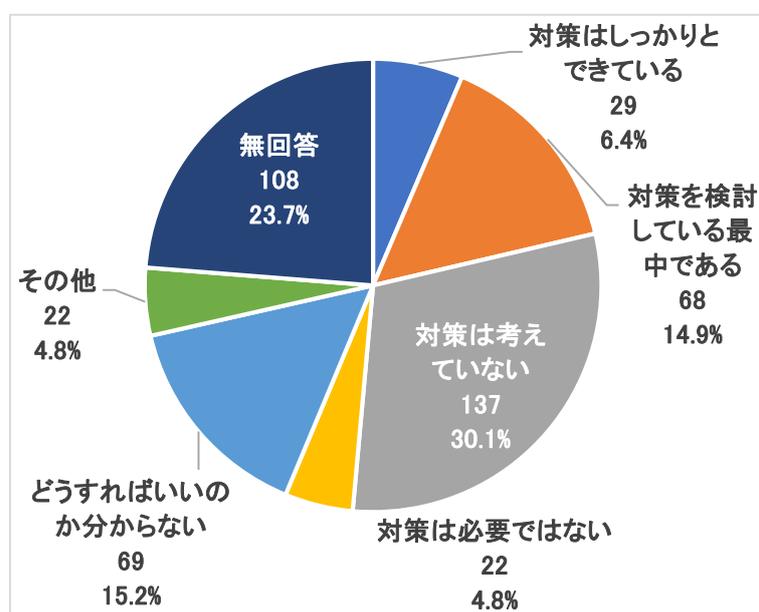
図：自動車利用の将来に対する不安について、年齢層別にクロス集計



自家用車の利用に不安を感じていることに対して、何か対策をとっているか聞いたところ、「対策はしっかりとできている」が29人(6.4%)、「対策を検討している最中である」が68人(14.9%)で、積極的に対策を検討している人は合わせて97人(21.3%)となっている。

一方で、「対策は考えていない」137人(30.1%)、「対策は必要ではない」22人(4.8%)、「どうすればいいのかわからない」69人(15.2%)と、対策をとろうとしていない、もしくはどうすべきかわからないという人の合計が228人(50.1%)となる。

図：その対策について



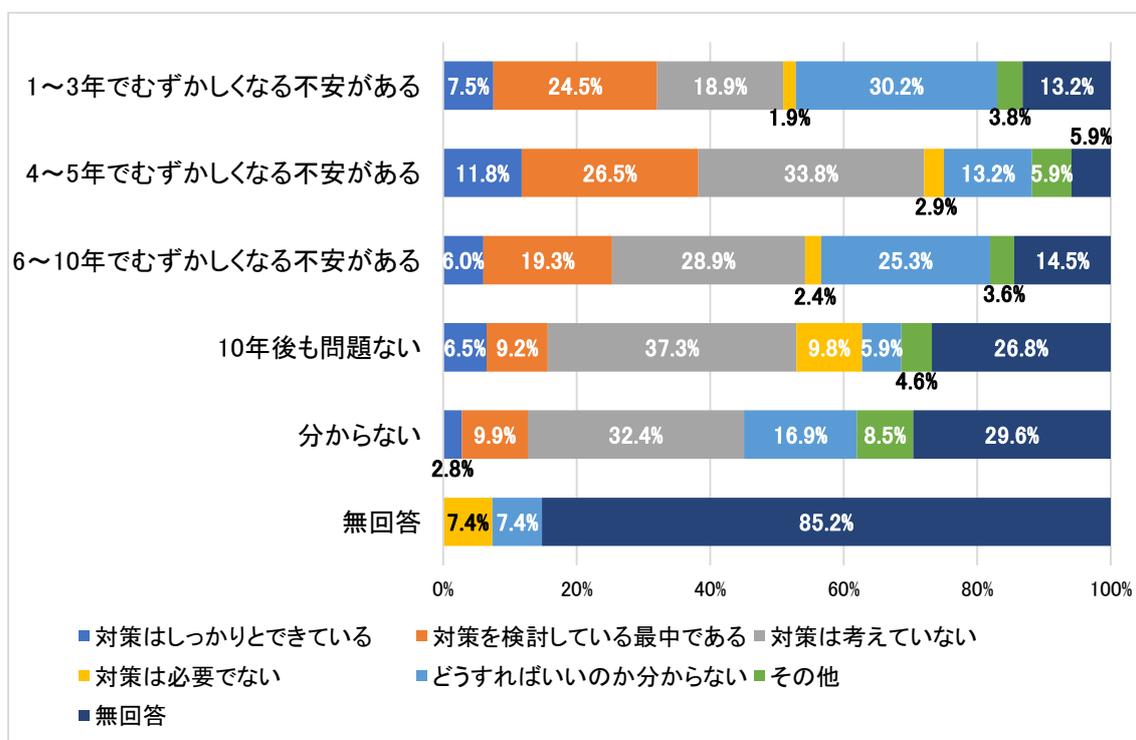
【その他の回答と具体的な対策内容】

- ・ 家族（子供や孫）に頼む。
- ・ タクシー、バス、鉄道を利用する。
- ・ できるだけ町内で買い物をする。
- ・ 町の公共交通対策を望む。
- ・ 自動運転の車ができるといい。
- ・ 自動ブレーキの車に変える。
- ・ 運転できなくなるまでわからない。
- ・ 入院する。
- ・ 具体的な対策はなく不安。

自動車利用の将来に対する不安とその対策の状況をクロス集計すると、「対策はしっかりとできている」と「対策を検討している最中である」の割合は、不安が大きい人ほど高くなる傾向にあるが、最も大きな不安を抱えている「1～3年でむずかしくなる不安がある」と回答した人では「4～5年でむずかしくなる不安がある」と回答した人に比べてその割合が減っている。一方で「どうすればいいのかわからない」とあきらめにもとれる回答が増加している。

「10年後も問題ない」や「わからない」と回答した人ほど、「対策は考えていない」、「無回答」が多くなっており、直近の不安として考えていない人が多いことがうかがえる。

図：自動車利用の将来に対する不安について、その対策とクロス集計



4) 回答者自身の外出手段としての公共交通利用

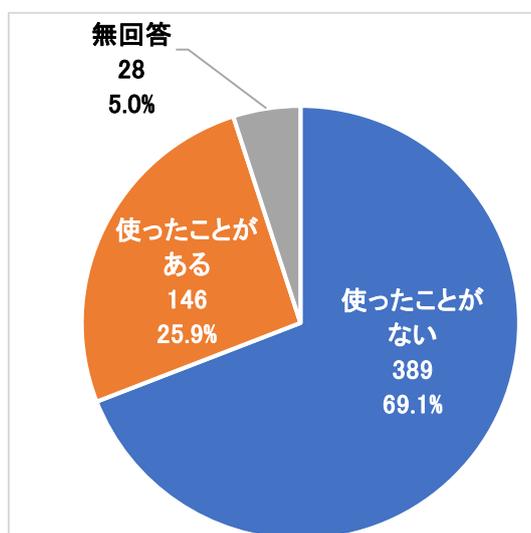
(1) 安田町内における路線バス（高知東部交通）の利用（乗車もしくは降車）

路線バスの利用経験を聞いたところ、「使ったことがある」は146人（25.9%）であった。「使ったことがない」は389人（69.1%）、「無回答」は28人（5.0%）となっていた。

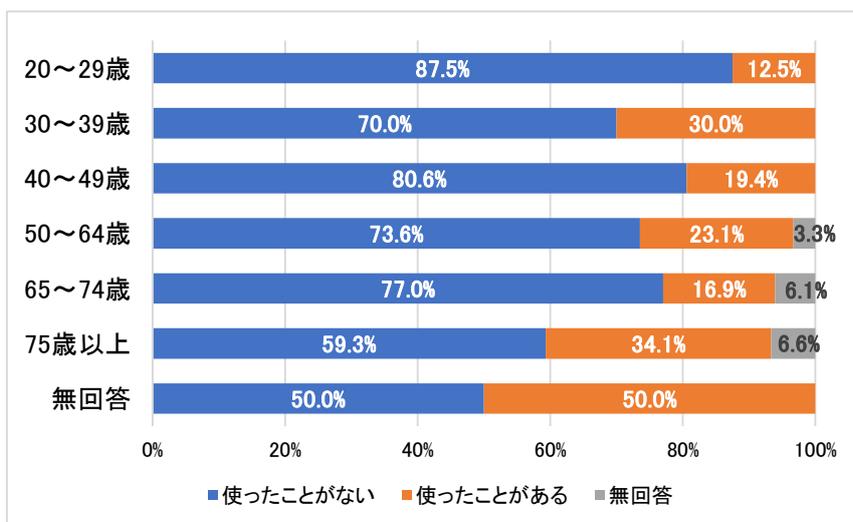
これを年齢層別にクロス集計してみると、75歳以上の人の利用経験が比較的高くなっているが、年齢層からは路線バスの利用について特に際立つ特徴は見られなかった。

住まいの地区別にクロス集計をしてみたところ、高知東部交通の馬路線、魚梁瀬線の沿線地区で比較的利用経験者が多い印象を受ける。

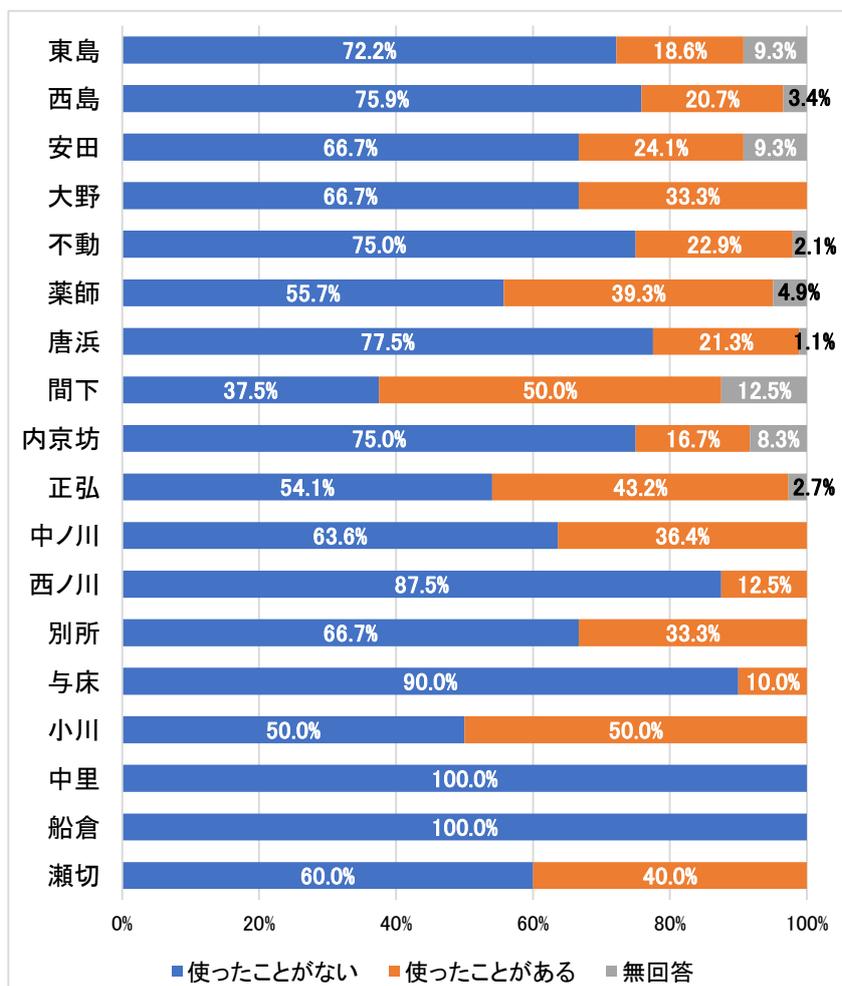
図：町内での路線バス利用経験



図：町内での路線バス利用経験について、年齢層別にクロス集計



図：町内での路線バス利用経験について、住まいの地区別にクロス集計



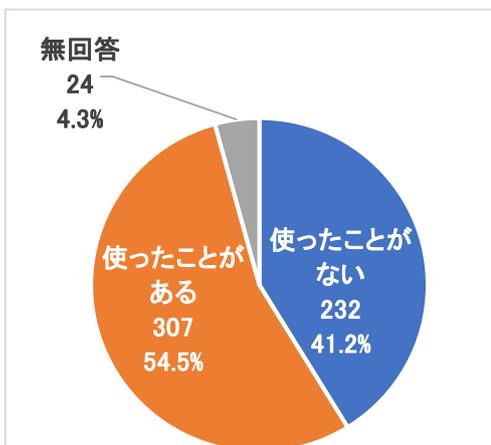
(2) 安田町内にて鉄道（ごめん・なはり線）を利用（乗車もしくは降車）

安田町内にてごめん・なはり線の利用経験を聞いたところ、「使ったことがある」は307人（54.5%）であった。「使ったことがない」は232人（41.2%）で、「無回答」は24人（4.3%）となっていた。

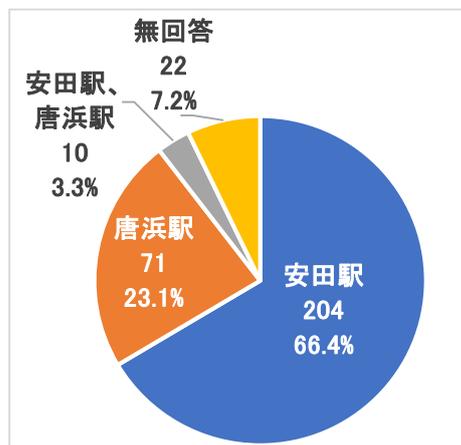
こちらも利用の経験を年齢層別にクロス集計してみたところ、ごめん・なはり線が開業した時（2002年7月）に学生であった世代と考えられる30～39歳の「使ったことがある」の回答の割合が他に比べて高くなっている。開業時に50歳を越えていた65歳以上の人の「使ったことがある」の回答の割合は低くなっている。

利用した駅については「安田駅」が多く204人（66.4%）、「唐浜駅」は71人（23.1%）「安田駅」と「唐浜駅」の両方を利用したと回答した人が10人（3.3%）となっている。

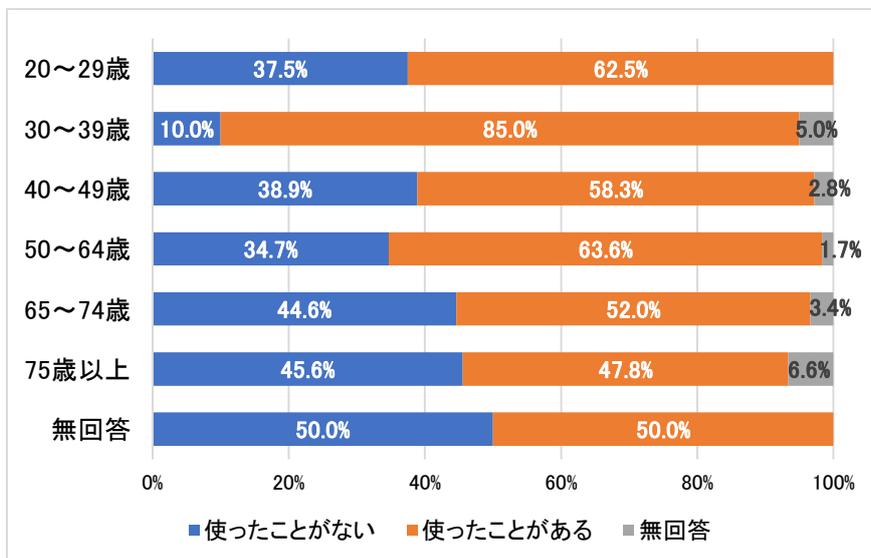
図：町内における鉄道利用経験



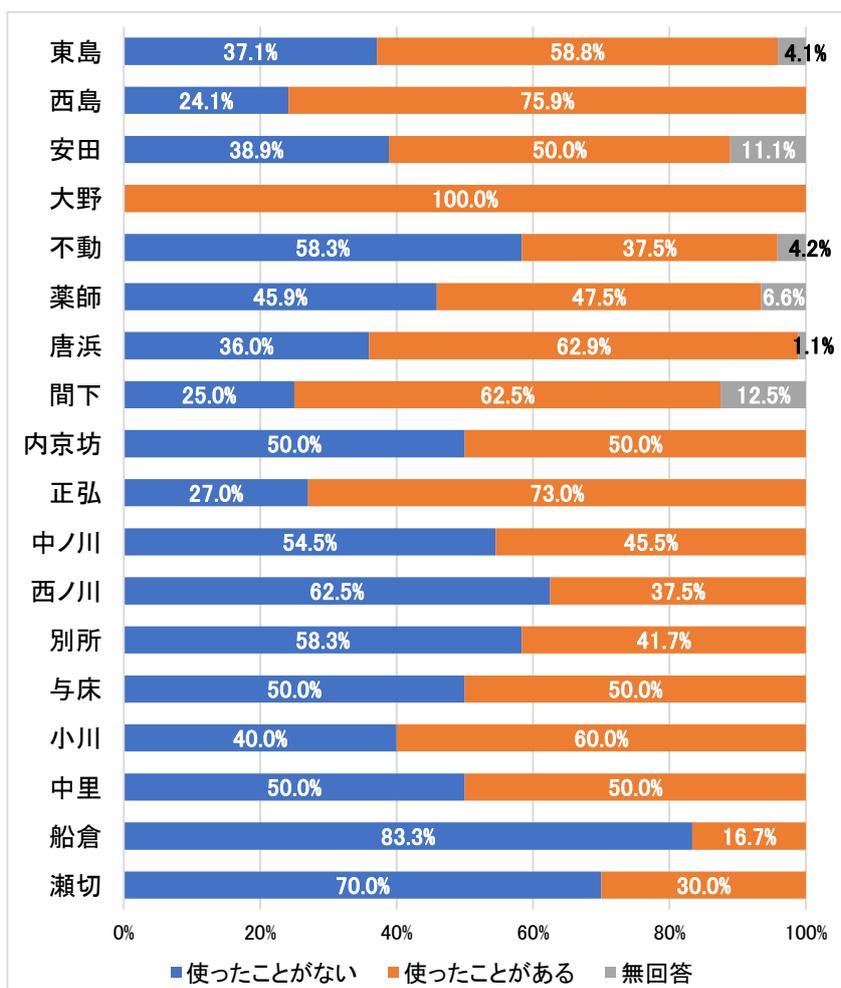
図：利用したことのある駅



図：町内における鉄道利用経験について、年齢層別にクロス集計



図：町内における鉄道利用経験について、住まいの地区別にクロス集計



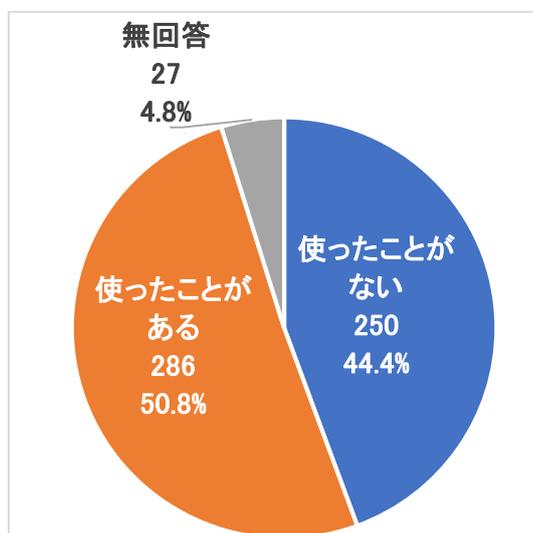
(3) 安田町内におけるタクシー利用

安田町内におけるタクシーの利用経験を聞いたところ、「使ったことがある」は286人(50.8%)、「使ったことがない」は250人(44.4%)で、「無回答」は27人(4.8%)となっていた。

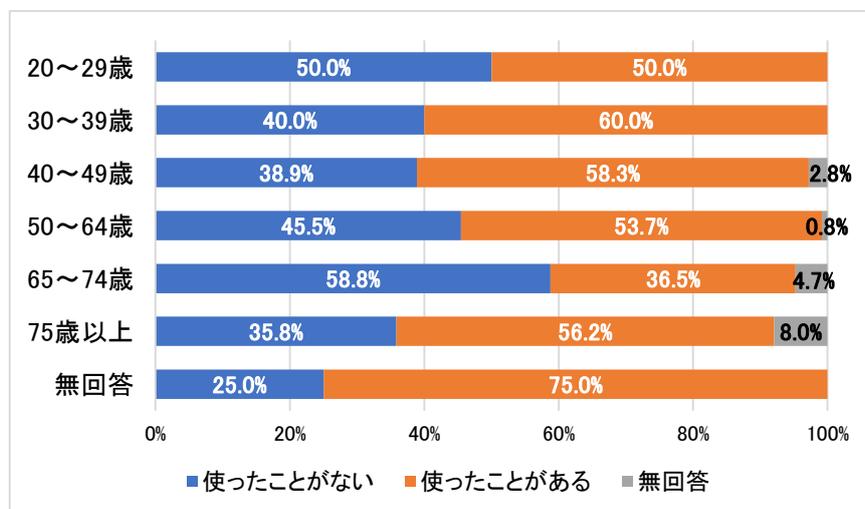
こちらにも利用の経験を年齢層別にクロス集計してみたところ、65～74歳で過去3年以内にタクシーを使ったことがない回答者が多いという結果になった。

タクシー利用の目的については「飲酒を前提とした外出」が圧倒的に多くなっており、続いて「通院」、「食事」、「冠婚葬祭」と続いている。

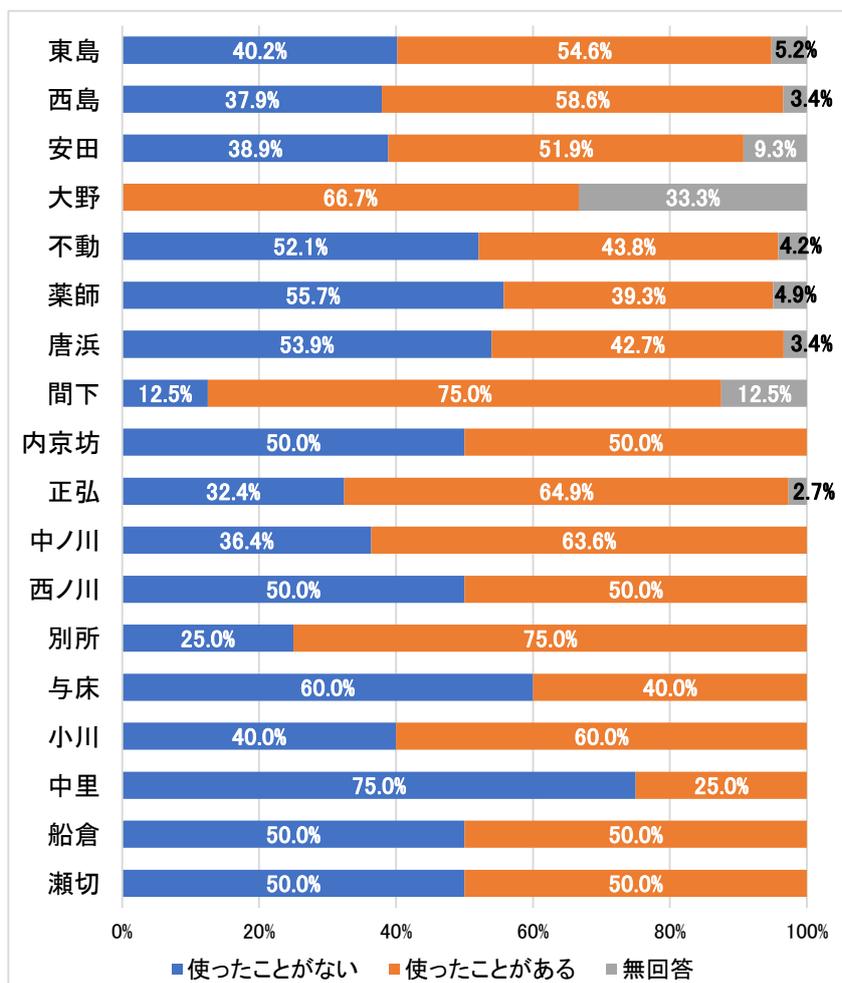
図：町内におけるタクシー利用経験



図：町内におけるタクシー利用経験について、年齢層別にクロス集計



図：町内におけるタクシー利用経験について、住まいの地区別にクロス集計



【タクシー利用の理由】

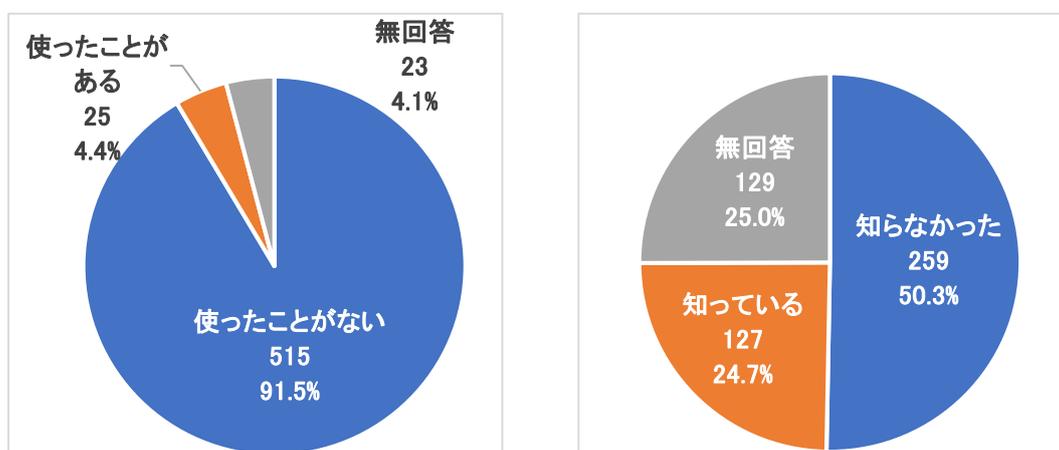
- ・ 飲酒を前提とした外出
- ・ 通院
- ・ 食事
- ・ 冠婚葬祭
- ・ 鉄道利用のため駅まで行くため（駅から家の往復）
- ・ 買い物
- ・ 天候不良
- ・ 体調不良（身体的な不都合）
- ・ バスに乗り遅れたとき
- ・ 会合・会議
- ・ 急用・緊急時
- ・ 美容院、散髪
- ・ 運転できる家族が居ないとき

(4) おしゃべりバスの利用

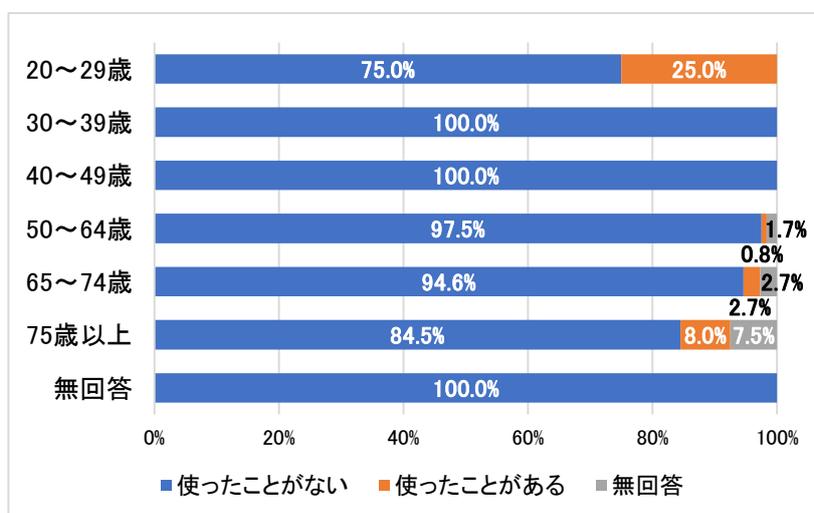
おしゃべりバスの利用経験を聞いたところ、「使ったことがある」が25人(4.4%)、「使ったことがない」が515人(91.5%)となっており、ほとんどの回答者が利用したことがないと回答した。利用経験について年齢層別にクロス集計したところ、20～29歳の回答者の内25%(8人中2人)が利用したことがあるとなっており、30歳～49歳では利用経験者がいない中で高い数値だと受け取ることができる。

おしゃべりバスの認知度を聞いたところ、全ての年齢層で「知らなかった」と回答した人が多くなっている。また、住まいの地区別にクロス集計したところ、平野部の地区で「知らなかった」と回答した人が多くなっている。

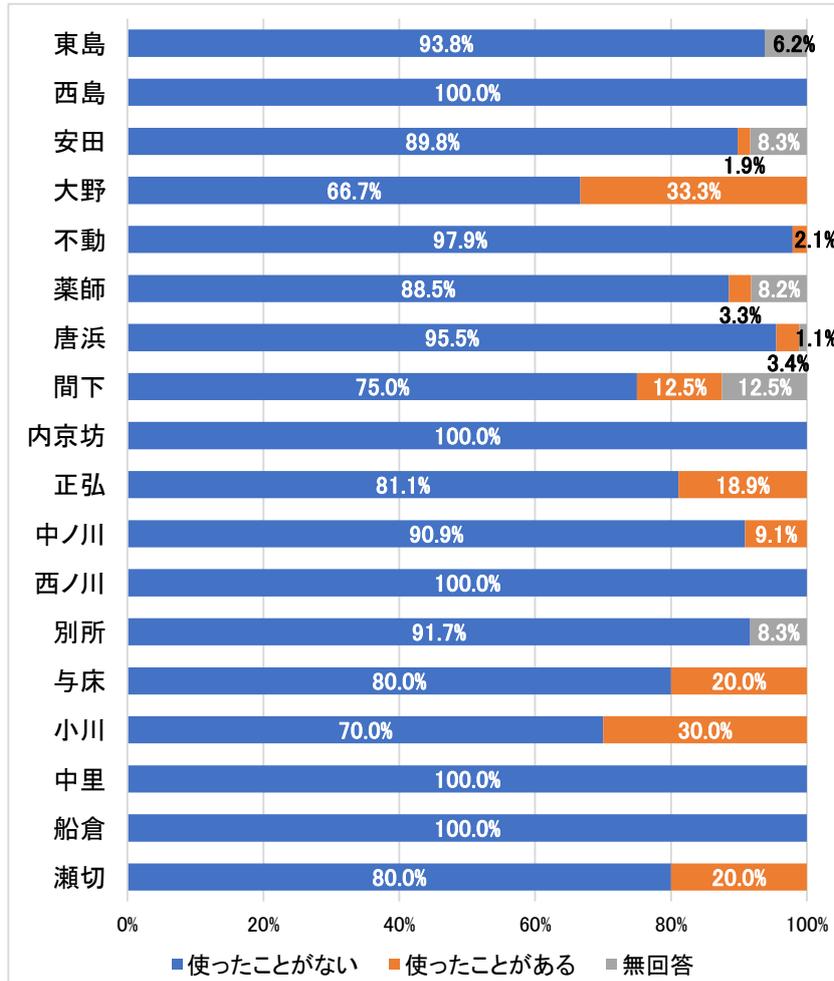
図：おしゃべりバスの利用経験と認知度



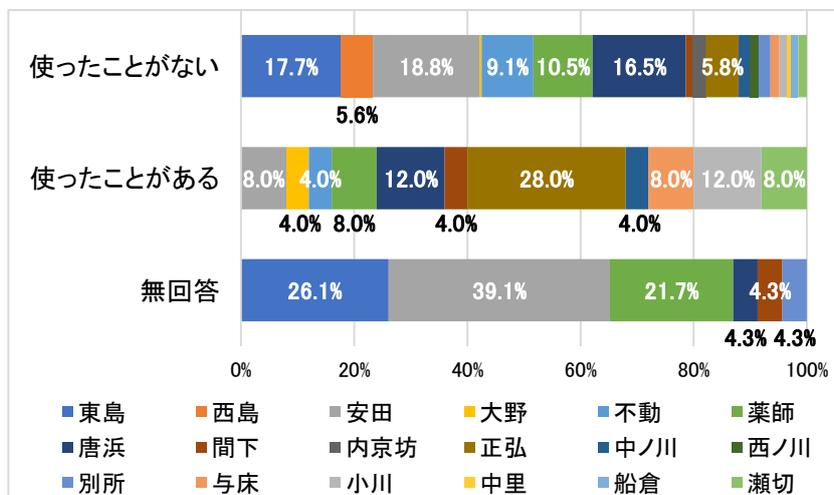
図：おしゃべりバスの利用経験について、年齢層別にクロス集計



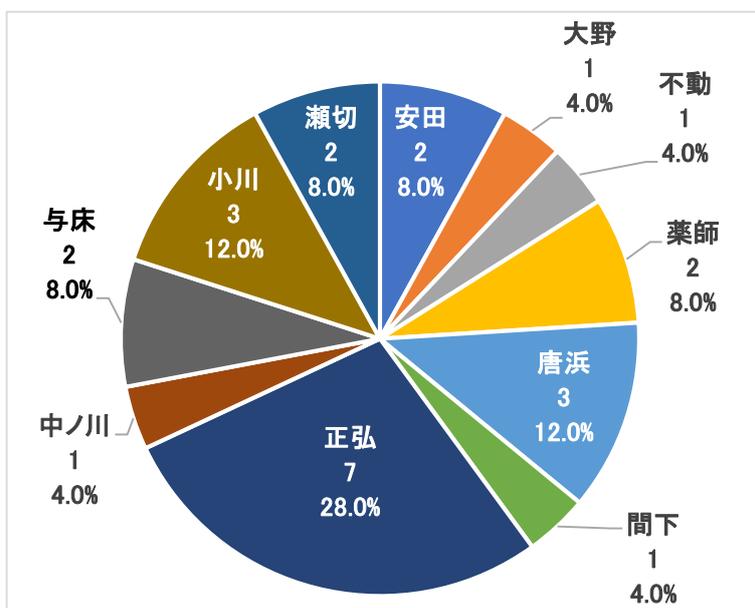
図：おしゃべりバスの利用経験について、住まいの地区別にクロス集計



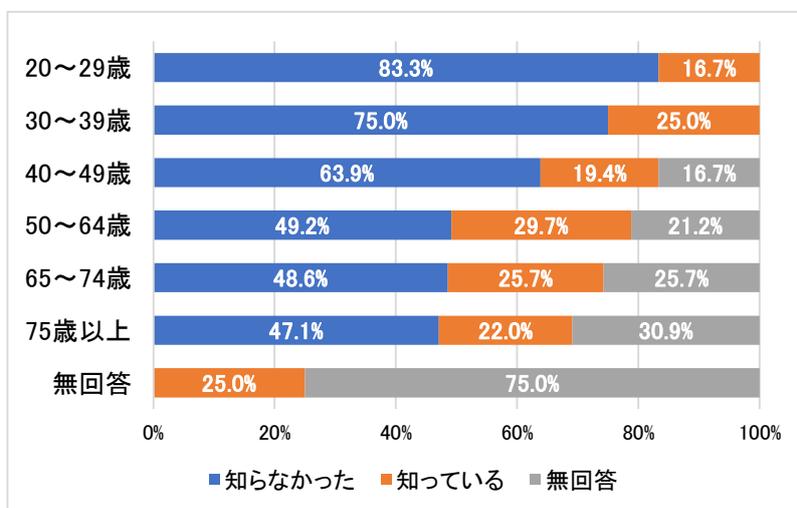
図：おしゃべりバスの利用経験について、住まいの地区別にクロス集計



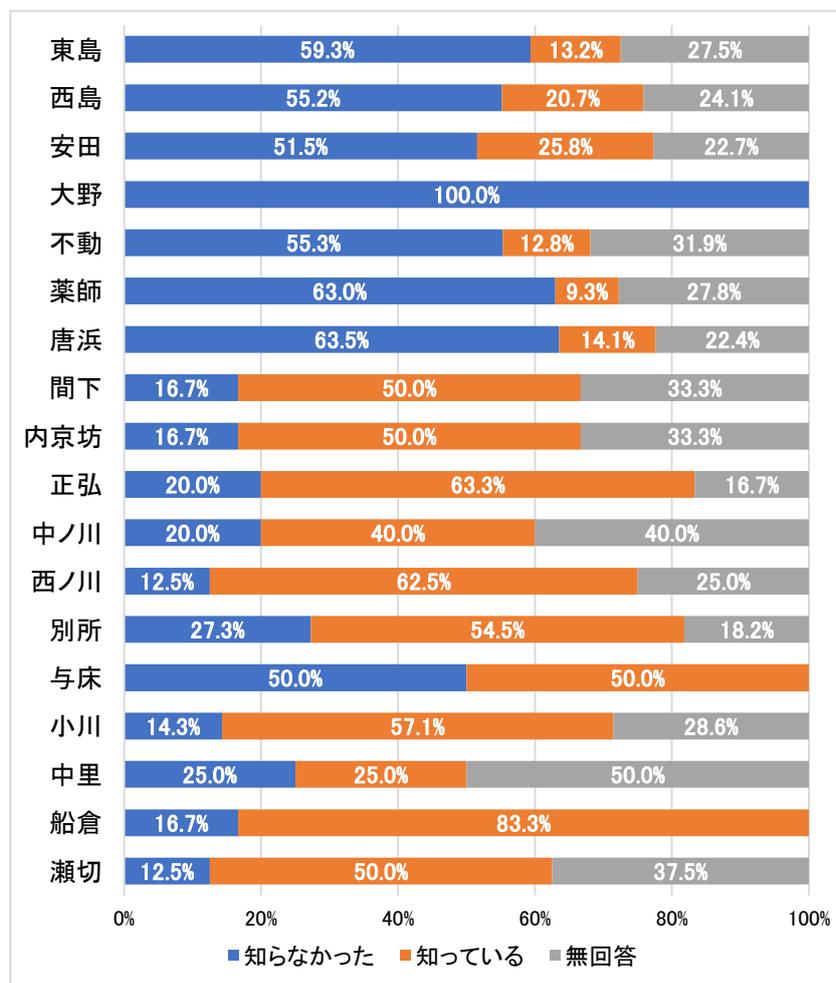
図：おしゃべりバス利用者の住まいの地区



図：おしゃべりバスの認知度について、年齢層別にクロス集計



図：おしゃべりバスの認知度について、住まいの地区別にクロス集計



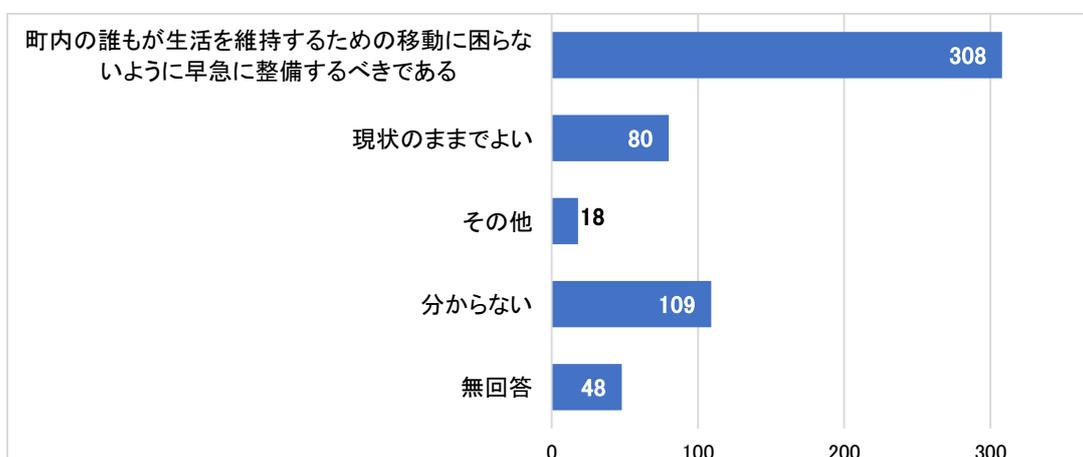
5) 回答者の考える町内の公共交通機関のあるべき姿について

(1) 町内における公共交通整備について

町内における公共交通整備について聞いたところ、「町内の誰もが生活を維持するための移動に困らないように早急に整備するべきである」が308人(54.7%)、「分からない」が109人(19.4%)、「現状のままでよい」が80人(14.2%)、「その他」が18人(3.2%)と続いている。現状のままではなく整備をするべきという積極派が半数を超えており、現状維持派の約3.8倍となっている。

「その他」の内訳や自由筆記内容を見ると、より具体的な整備を求める内容ととれるものが多くなっている。

図：町内における公共交通整備について



【その他の回答】

- ・安芸市で元気バスを見るたびにいいなと思うけれど、町の経費が大変ですね。
- ・おしゃべりバスを唐浜地区でも運行すべき。
- ・海岸で生活をしている人は、バス、鉄道がある。
- ・ぐるりんバスで。ただ採算に合わない。
- ・現在どのような交通整備をしているのか知らない。
- ・コスト含め、定期運行など（時間、回数）不可能と思われる。
- ・今後、整備すべきである。
- ・将来安田町が単独で存在するであろうか。広域的な合併は行われまいであろうか。そのうえで、道路網計画や公共交通整備を検討していくことはないのか。
- ・狭い道を広げ、信号をつけること（事故の多いところを直す）。
- ・タクシーチケットなどを配る方がいいと思う。
- ・町内のタクシーを活用して、利用者がハイヤーをシェアできるようなシステムを作れないか？おしゃべりバスの民間バージョン。現状の利用者数では、公共交通に負担が増えるだけでは？
- ・人はそれぞれ行きたい場所、時間が違うので難しいと思う。

- ・補助金制度を作る。
- ・やがて自動運転の車が出てくると思います。生活上必要な外出は将来、病院、スーパー程度になりそうで歩いていく範囲にそういった施設があればよいと思う。
- ・安田町の独自の移動手段の創設。
- ・公用車の有効活用。

■ それぞれの回答選択に対する理由

□「1. 町内の誰もが生活を維持するための移動に困らないように早急に整備すべきである」と回答した人の理由〔同様の意見は集約〕

- ・高齢化が進む（進んでいる）から。
- ・日常生活を維持するため。
- ・独自の移動手段を持っていないから。
- ・現状で、家からバス停や駅までが遠いため、公共の使える移動手段がない。
- ・運転できない人（できなくなった人）の移動手段の選択肢はないと困る。
- ・移動手段不足者の増加が予想されるため、検討を進めるべきだと思う。
- ・高齢化が進み店も少ない中、交通手段だけを整備してもどうかと思う。
- ・みんながいつでも楽に行けるように整備してほしい。
- ・中山地区の生活者は困るだろう。移動に困る方のために新しい方法を考えていくとよい。
- ・自家用車がない人、運転できない状況にある人の移動手段を考えていく必要がある。
- ・なんでも公共に依存する体質は好ましくないし、極力自力でやらねばならないが、体力に限界があると思われるので。
- ・夫婦のみの生活。（だから将来的に移動手段の確保に不安がある？）
- ・自家用車に乗っているのです。

□「2. 現状のままでいい」と回答した人の理由 [同様の意見は集約]

- ・自分のことは自分でするから。
- ・自分自身の公共交通の利用回数が少ないから。
- ・現在、不自由していないから。
- ・現在の公共交通で満足しているから。
- ・通院の付き添い、飲酒などで車を使用するから。
- ・町自体に何も無いのに公共交通を整備しても利用者がいないと思う。道路は大事だけど公共の移動手段はある程度でいいと思う。町自体を大きくしてから考えた方が良く思う。
- ・地域によって、生活形態が違うので、地域に合った対策も取られている。
- ・安田町での買い物は不便で品物が揃わないため、みんな町外へ行く。
- ・バスや列車もあり、これ以上は望めないのでは。
- ・車のない家はないので、一人暮らしは困るけれど、どうせ一人では買い物にも行けないので誰かが融通を利かせて買い物に行ってもらえればと思う。

□「3. その他」と回答した人の理由

- ・海岸近く（国道 55 号沿線）で生活をしている人は、バス、鉄道がある。
- ・誰もが目的地に自由に行けることが理想ですが、現実的には難しいです。その理想に近い整備を願っています。
- ・人はそれぞれ行きたい場所、時間が違うので難しいと思う。

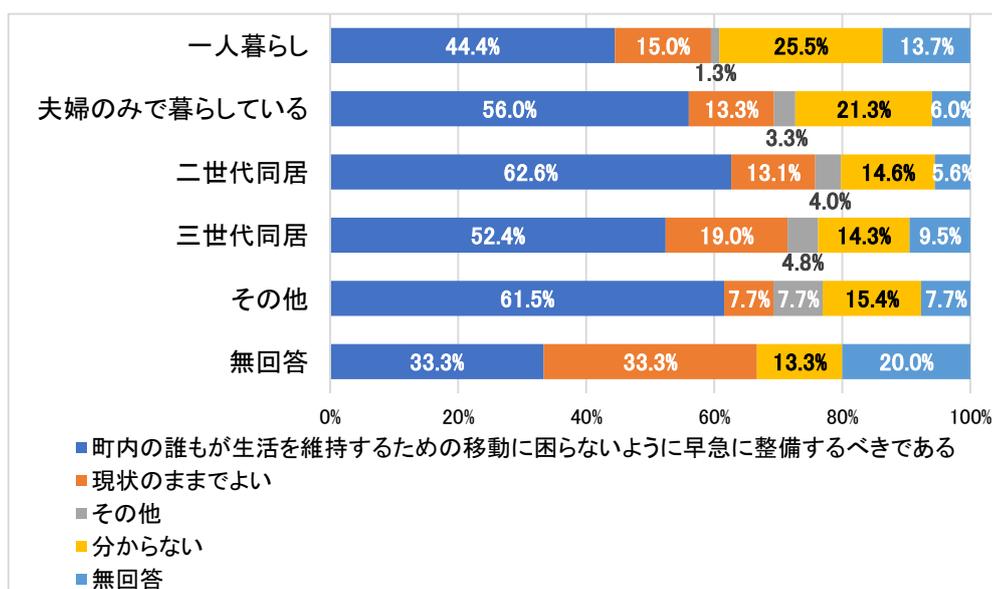
□「4. わからない」と回答した人の理由

- ・車に乗らなくなったら、歩いて買い物にも行くと思います。
- ・現在は車に乗ってはいるけれど、この先とても不安に思っています。しかし、どのようにと考えが浮かばない。毎日車に乗っているけれど、これからはまとめて買い物するようになるか不安。
- ・やむを得ずタクシー利用となる。
- ・できれば理想として、「1」が実現されるとよいのですが、「だれもが」を考える時不安を覚える。
- ・公共交通を利用する人が少ない上に普通に歩けない人も多い。早急に整備しても利用が増えるとは思えません。
- ・公共交通の内容を知らないから。

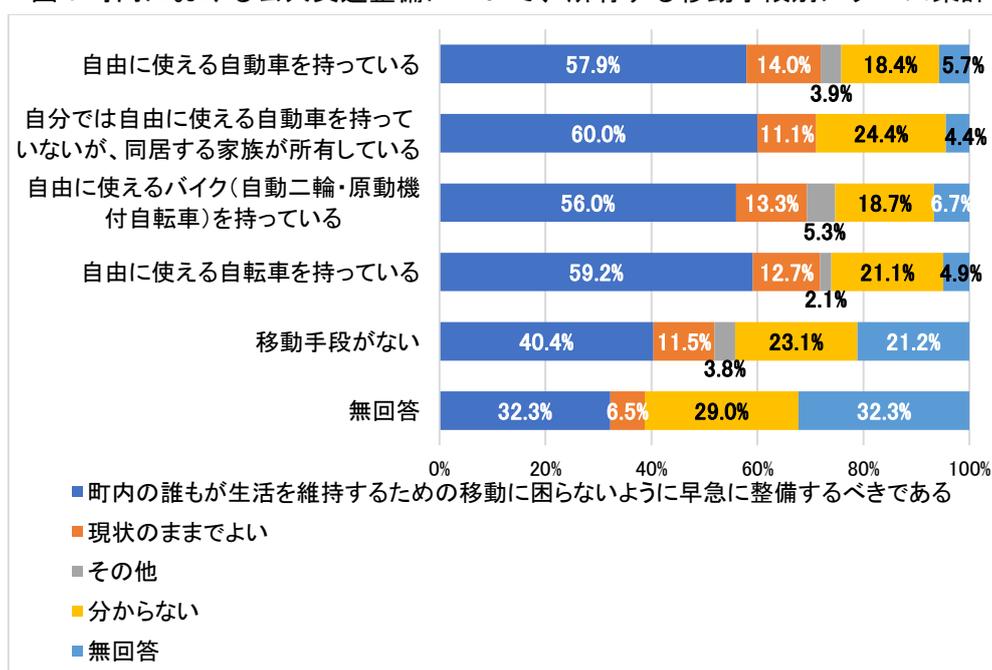
本設問における結果を、家族構成別にクロス集計したところ、家族構成から浮かび上がる特徴は見受けられないが、どのような家族構成であっても「～早急に整備するべきである」と回答した人の割合が高くなっている。

また、回答者の年齢層別にクロス集計したところ、どの世代でも「～早急に整備するべきである」と回答した人の割合が高くなっている。

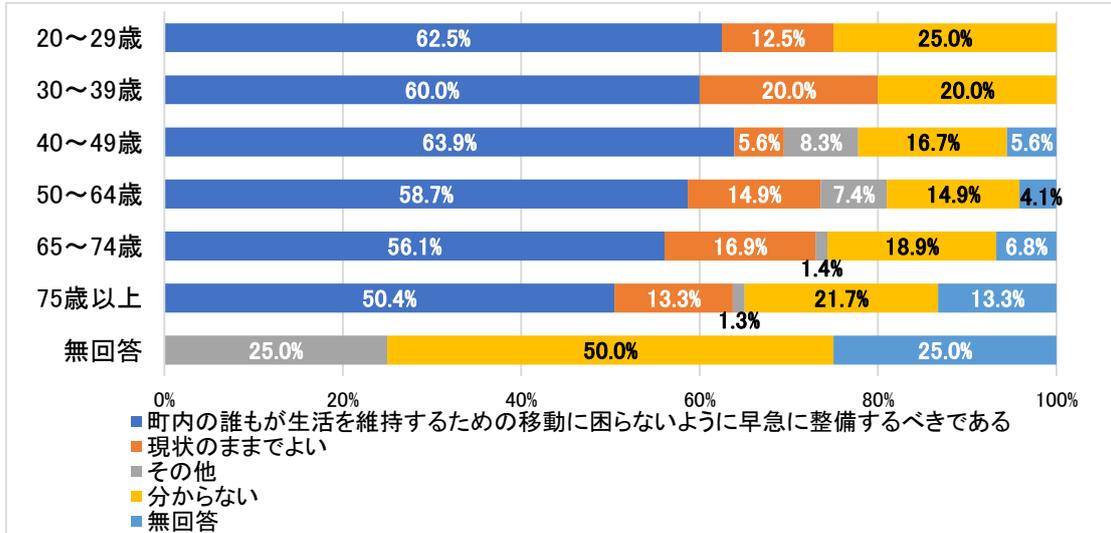
図：町内における公共交通整備について、家族構成別にクロス集計



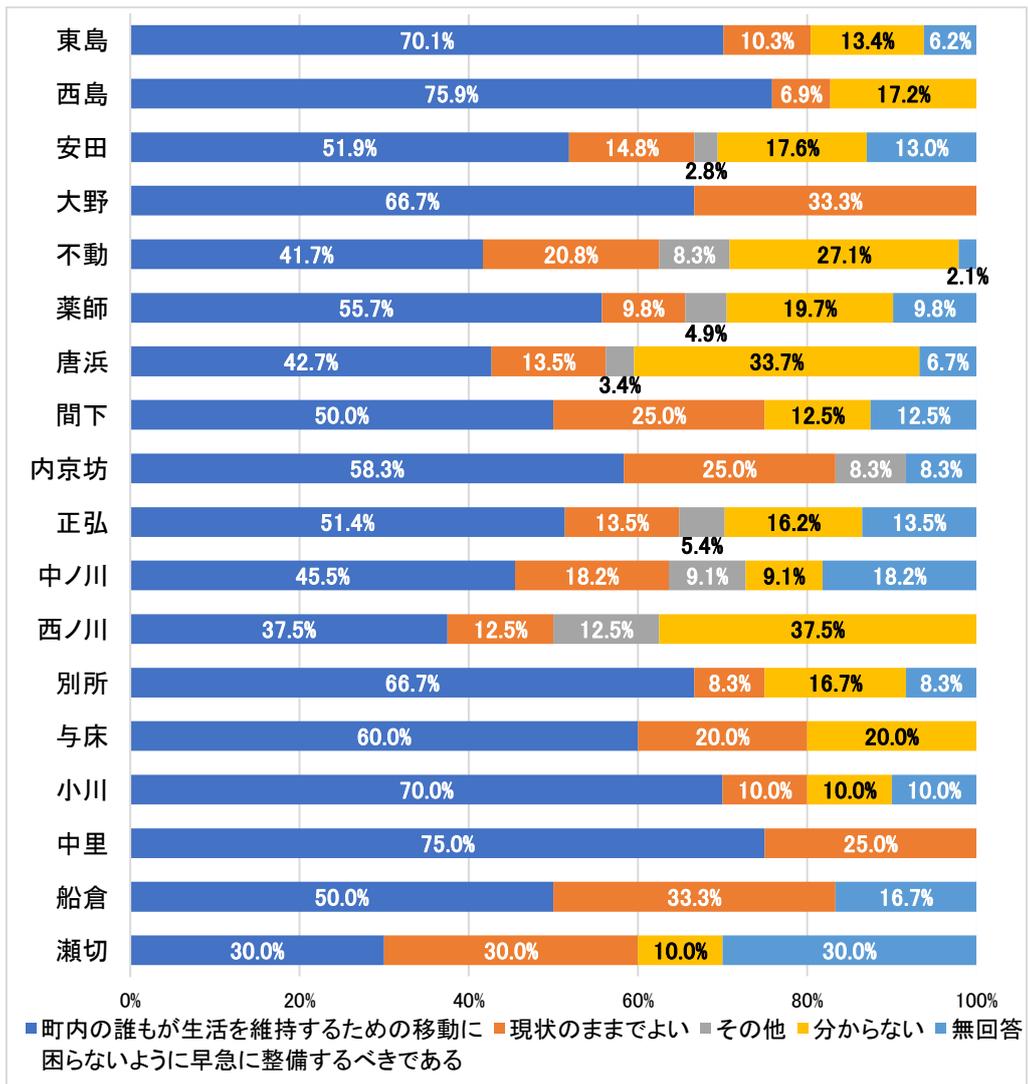
図：町内における公共交通整備について、所有する移動手段別にクロス集計



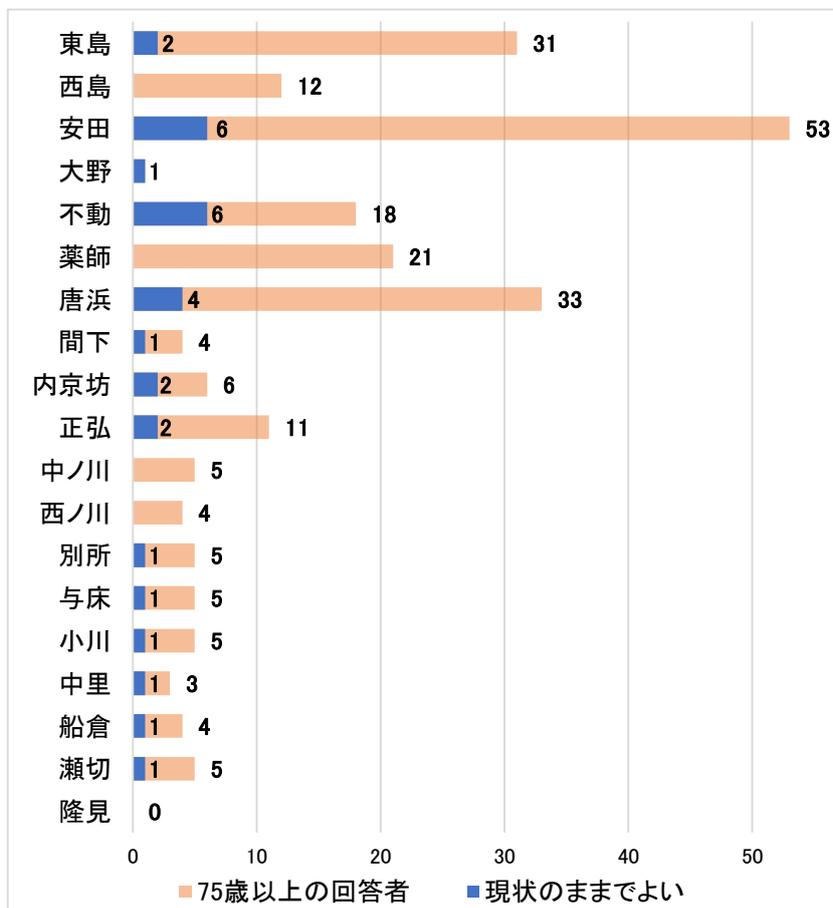
図：町内における公共交通整備について、年齢層別にクロス集計



図：町内における公共交通整備について、住まいの地区別にクロス集計



表：住まいの地区別に見た75歳以上で「現状のままでよい」と回答した人の数



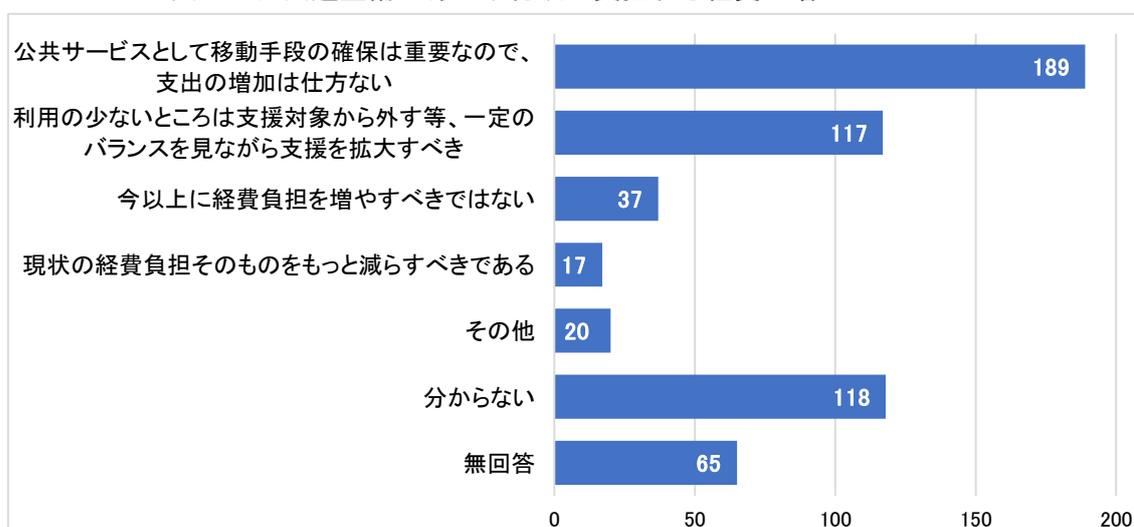
(2) 公共交通整備にあたり、行政が負担する経費の増加について

公共交通整備のために経費が増加することについて聞いたところ、「公共サービスとして移動手段の確保は重要なので、支出の増加は仕方ない」が 189 人 (33.6%)、「分からない」118 人 (20.9%)、「利用の少ないところは支援対象から外す等、一定のバランスを見ながら支援を拡大すべき」が 117 人 (20.8%)、「今以上に経費負担を増やすべきではない」が 37 人 (6.6%)、「現状の経費負担そのものをもっと減らすべきである」が 17 人 (3.0%)、と続いている。

最低限バランスを考慮しつつも、公共交通整備への支出増加は容認できると回答している人の合計が 306 人 (54.3%) となっている。逆に「今以上に経費負担を増やすべきではない」と「現状の経費負担そのものをもっと減らすべきである」という消極派は 54 人 (9.6%) となっている。

この結果を「年齢層別」や「所有する移動手段別」にクロス集計してみると、移動手段の確保に困難を来していると予測される 75 歳以上の回答者や、「自分では自由に使えないが、同居する家族が保有」、「移動手段がない」と回答した人が経費負担の増加について「分からない」と回答する傾向が多く見られた。

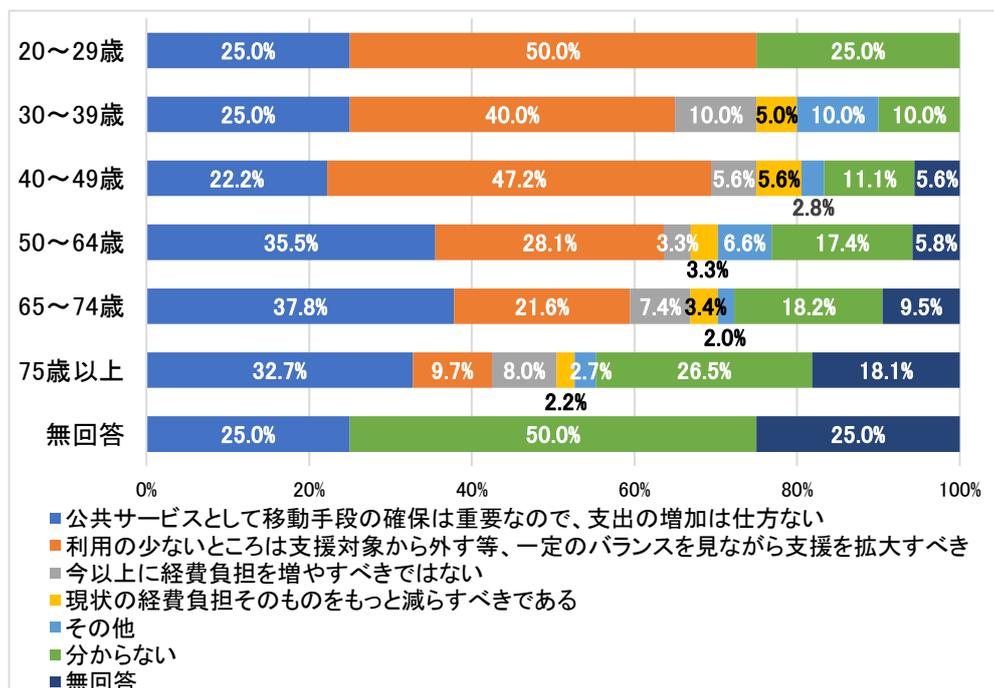
図：公共交通整備にあたり行政が負担する経費の増加について



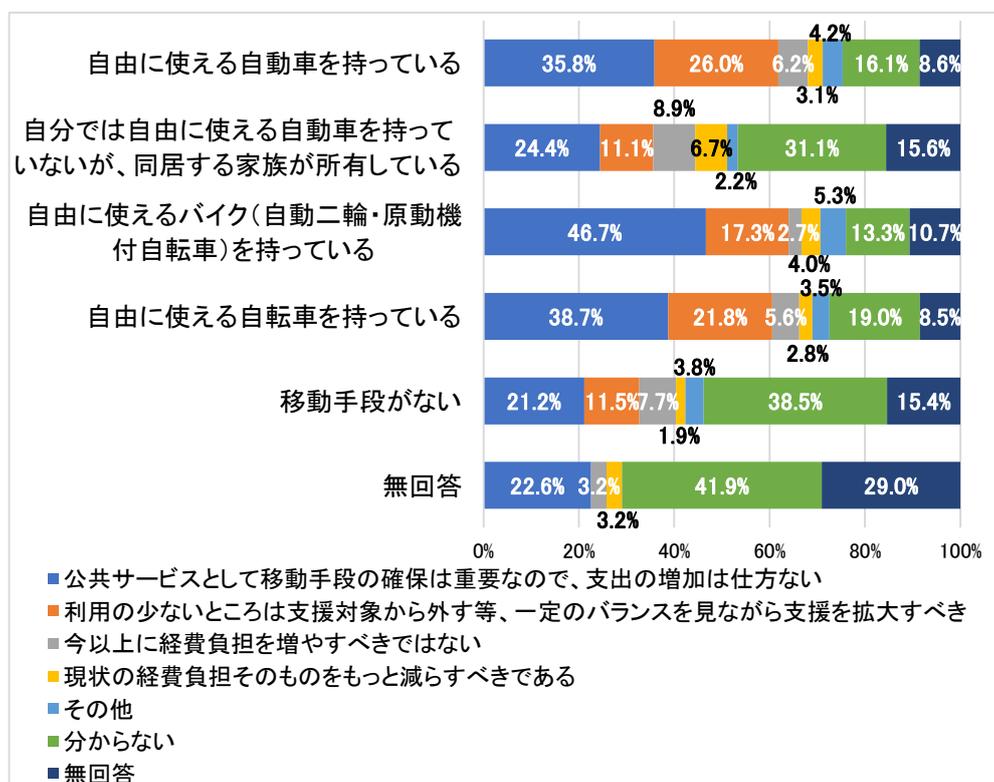
【その他の回答】

- ・経費負担に見合う効果が出ているか検討すべき。また、そういう支出があることをみんなが知っているか疑問である。
- ・手段のない者は、生活難民になるし、平等から考えると、経費の不公平さも出てくるので、難しい問題。
- ・地区を週1で回るバスにしたらいいと思う。タクシー代など個人に渡すと、個人だけが乗って移動となるので、経費が増大するのでは…。
- ・他に不要なものを減らすべき。
- ・予算のことはわからないのですが、「町の職員も配置してプチ手続きができる」、「食事や健康相談などができる」、「買い物を1か所でできる空間」を安田町に作り、定期的循環バスで行き来し、売り上げや従業員も確保しては？
- ・人口減少が急速なので現在ある事業者の利用を考えた方が良くと思う。
- ・鉄道、バス関係がどのように使われているのか分からないのでなんともいえない。
- ・1の回答で良しとしたいが、安田町では年間1500万円の経費負担とある。シャトルバス等走らせれば、更に負担は増大する。
- ・高齢者が病院に行く時間が確保できない。通勤、通学が主体である。
- ・ある程度（収入に応じてでも良いと思いますが）何らかの算定方法で、ある一定の限度額枠内で利用者さんにも負担してもらって、安田町の財政が破綻しないようにしなければと考えていますが。
- ・バスなどを使えない離れた地区を重点的に。
- ・公共のバスは、馬路村との利用者率により負担をするように考える。バス利用者が減っている現状を把握することも大事だと思う。
- ・費用負担はやむを得ないが、増加は無制限ではない。線引きも必要。
- ・個別交渉にて負担率頻度に合わせて決定しては。パターン化は不可能。
- ・安田町のみで対応すべきなのか。県や近隣市町村と一緒に検討すべきではないか。
- ・便利になると使いやすい、安ければ利用しやすい。
- ・経費の支払い内容を現実的なものとする。
- ・高齢者が住みやすい地域であることを望みます。そのためのサービス提供は必要だと思います。でないと誰もいなくなります。
- ・地元も必要だと思うが、観光客も大事かと。せつかくの日本遺産。

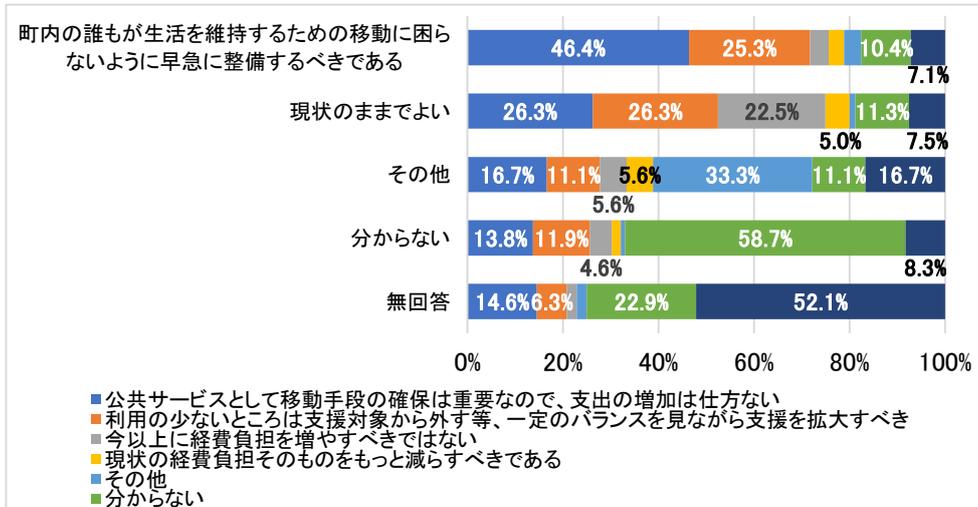
図：公共交通整備にあたり行政が負担する経費の増加について、年齢層別にクロス集計



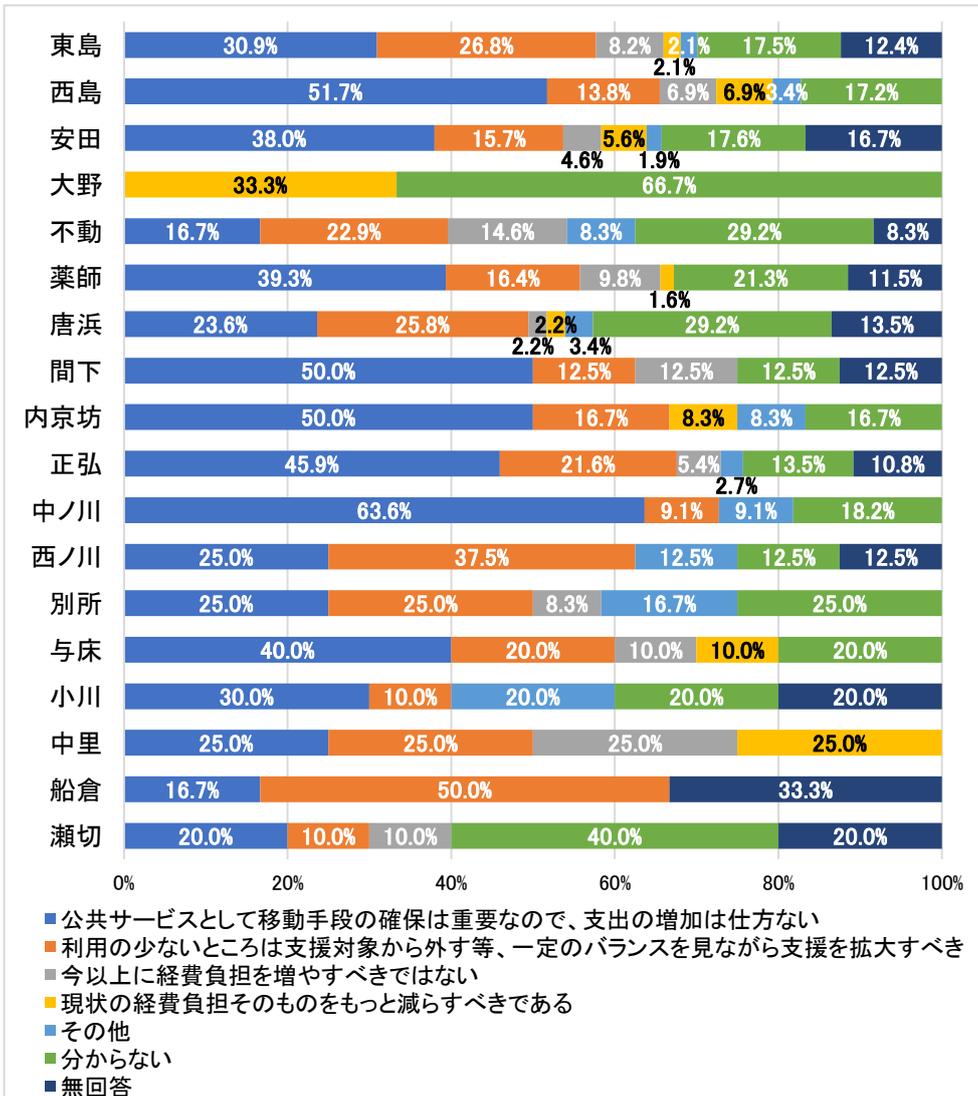
図：公共交通整備にあたり行政が負担する経費の増加について、所有する移動手段別にクロス集計



図：町内における公共交通整備について、経費増加に対する意見でクロス集計



図：行政が負担する経費増加に対する意見を住まいの地区別でクロス集計



(3) 移動手段に関する自由筆記意見

■ 現在の公共交通について

◇ 公共交通全般について

○ 運行ダイヤ・運行便数について

- ・鉄道、バスの便数を増やす。
- ・時間の選択ができるように回数を増やす。
- ・年若いと公共の乗り物を利用するしかないのも、もっとバスや電車の時間を増やさないとは不便である。通学通院に利用するのに本数が少なすぎる。
- ・公共交通の数が少ない。
- ・バスの運行回数が少なく、タクシーも金額が高く、生活に困っている。年金生活ではやっていけない。
- ・乗り遅れると次の乗り物はしばらく来ない。
- ・公共交通の本数が少なく、思うように利用できない。
- ・路線バスの時間を高齢者向けに少し考えてもらいたいです。

○ 停留所やバス停までの距離について

- ・バス停までが遠い。
- ・公共交通を利用したいが、乗りに行くまでの道が遠く、玄関先で乗せてもらえるタクシーを利用するが、金額が高い。
- ・あと数年で外出が不便となるが、バスがあっても乗車場所までの移動が大変だと思う。
- ・公共交通を利用したくても、バス停までが遠く、また「おしゃべりバス」については、みんなと一緒に楽しく買い物をしたいのですが、乗車口まで行けないことが残念です。移動式スーパーに感謝しています。

○ その他

- ・公共のバスは、馬路村との利用者率により負担をするように考える。バス利用者が減っている現状を把握することも大事だと思う。
- ・現状における交通事業者への補助について、経費負担に見合う効果が出ているか検証すべき。また、そういう支出があることをみんなが知っているか疑問である。
- ・料金が高いので、頻繁に利用することが難しい。
- ・安田町内でも中山地域の奥地でバスやタクシーを利用するには、時間的制約、費用などがかかり、高齢者の生活に支障が出るため。
- ・公共交通機関の周知徹底（曜日、時間など）。
- ・枝線に住む町民の利用策。
- ・そもそも公共機関の移動手段を利用することに慣れていない。安田町内のお年寄りには、車が最も身近な移動手段であると思う。
- ・鉄道、バスともにあまり利用されていないように思います。
- ・バス、鉄道は待ち時間が大変だ。

- ・待ち時間の多いこと。無人駅において1人で列車を待つことの不安が大きい。

◇ 鉄道について

- ・鉄道ができて時間が正確になった。

◇ 路線バスについて

○ 路線について

- ・できるだけ地域の隅々まで行けるようにしてもらいたい。
- ・路線状況が悪すぎる。
- ・これから先、運転するのができなくなることは明らかです。が、車両の多い国道を横切ることも難しく。町道に公共のバスが入ってきてくれることでもない限り、利用したいとは思わないです。

○ ダイヤ、便について

- ・馬路を朝8時頃に出るバスが欲しい。
- ・バスの回数を多くする様に願いたい。
- ・安田・馬路線のバスに乗っている人が何人いるか？このまま業者に頼っていいのか？町に来てバスまで時間をつぶせる施設もないから、馬路線の本数を増やせないか。
- ・バスの本数が少ないために徒歩で安田駅まで行かないと行けません（鉄道利用するため）。雨の日等も大変です。身体も弱く心臓病などあるため、とっても不安です。バスの本数を増やしてもらうとかなり助かります。
- ・本数がもう少し多いと使いやすいと思う。
- ・バスの本数が少ないので、移動に不便。
- ・バスは時間的に不便。

○ その他

- ・現在車に乗っているので困っている事はないが、これから先は手段がなくなって困ると思う。バスの料金が安いと使いやすいと思う。
- ・バス停は雨の時、待合（屋根）がないので困る。
- ・廃止にならないように、少しでも利用するだけ。
- ・自宅前にバスは来てない。
- ・特にバスが利用されていない。

◇ タクシーについて

- ・買い物にタクシーを利用しなければならないようでは問題。
- ・年金暮らしのお年寄りがタクシーなどを利用して、経済的に大変である。
- ・毎回タクシーを使っているのは金銭的に続かない。

- ・ハイヤーは値段が高い。
- ・将来自転車に乗れなくなったら、タクシーが移動手段になると思う。お金の心配もある。
- ・公共交通を利用したいが、乗りに行くまでの道が遠く、玄関先で乗せてもらえるタクシーを利用するが、金額が高い。
- ・タクシーサービス券を高齢になって渡されても 1 年間の利用回数には足りない人も考えられる。
- ・いつもタクシーで行くのでお金がかかる。
- ・バス代、タクシー代など高く、国民年金ではやっていけない。
- ・バスの回数も少なく、タクシーも金額が高く、生活に困っている。年金生活ではやっていけない。

■ 新しい移動手段の確保策について

◇ 町営バスの整備

- ・町内巡回バスを走らせてほしい。乗りたい人は前もって連絡しておく。
- ・町所有のバスを運行させる。
- ・車の運転をしなくなった場合、買い物、病院などへ行くときはどうしたらいいのか考える時があります。公共交通(バス)がなくなる不安もあり、やはり町運営のバスが必要なかもしれません。スクールバスをもっと利用しやすいようにしてはどうか。
- ・低賃金でのバス路線を走らせる。
- ・交通手段のない方、だれでも利用できるバスが、週 1 回位、田野町や奈半利町への病院や買い物のために移動できるよう運行してもらえると助かる人がいると思う（なかなかむずかしいとは思いますが）。
- ・町内を回ることでできるぐるりんバスを。
- ・どうしても病院の通院のためには、町内を回る乗り合いバスが必要になる。
- ・田野町の事例を参考にして取り組んでもらいたい。
- ・田野町で行っているマイクロバスのような仕組みがよい。
- ・あと 1~2 年で 80 歳代となる。自家用車の利用には無理があり、生活に不安がある。移動したいときに使える交通手段として、臨機応変に使える安価な交通手段、つまりマイクロバスなどを使っての交通対策を考えるべき（自己負担も一部あっていいと考えるがどうか?）。
- ・町などが、他の町のようにぐるりんバスの運行などに取り組んでほしいです。
- ・通院、買い物などに支障のないよう、公共交通機関の利用が常時できるようになったらいいと思う。
(例：町負担で、バスの運行(町内のみ) 方策を検討してください。)
- ・高齢者のための移動バス(有料)の検討。

- ・移動手段としてハイヤーは経費がかかりすぎるし、北川バスの様なバスが安田にもあればいいと思う。
- ・北川村や安芸市などのようなマイクロバスが定期的に運行されるようになったら良いと思う。
- ・安田町の小型バスの充実化を行う。
- ・曜日を決めてぐるりんバスを運行すると思う。
- ・通院の時、安田駅までの足が無く、家族もハウスにいて多忙なため、何とか高齢者向けのマイクロバスでも欲しいと思う。
- ・既存のバスなどについては、利用する時間がもう少し選択できるくらい運行回数がないと実際に活用は難しい。経費の少ない「小型のぐるりんバス」のような公共による無料で利用できるものを整備する。
- ・将来自転車の使用が不可能になったとき、食料の買い出しができなくなるので、できればマイクロバスを運行していただければありがたいです。
- ・ぐるりんバスで。ただ採算は合わないだろう。
- ・お年寄りの買い物などのために。田野町のようなモデルを参考。
- ・買い物、通院に必要なバス（3町内）。
- ・役場、郵便局などの利用のため1日3回くらいの町内バスが必要。
- ・高齢者などのために周回バスなど定期的に。
- ・高齢化が進む現在、国を挙げて補助事業を取り組み、シャトルバスなどを運行する。
- ・鉄道などではだめ。周回バスなどを走らせる。どこでも自宅でも乗れるようにする。
- ・たのくるバスのように、もっとバスを動かせばいい。
- ・安芸市の元気バス、北川村村営バス、田野町のたのくるバスなど、自治体が運営する移動手段があるが、安田町は？
- ・ぐるりんバスのように町運営で公共交通とつなぐ物があればいいと思う。
- ・週に1~2回、買い物のためのマイクロバスを運行していただければ都合がよい。
- ・町内を巡回できる仕組みを組み立て、シャトルバスとして走らせるのが理想。

◇ おしゃべりバス(高齢者の買い物支援)の充実

- ・おしゃべりバスのような外出支援サービスの回数を増やせるのであれば増やす。ごめん・なはり線の駅を経由するバスがあれば、もっと鉄道を利用しやすくなると思う。
- ・おしゃべりバスは知らなかったが、そんなバスがあればよい。
- ・町が運行している福祉バスを月2回くらいにして、運行時間に広報などで知らせほしい。
- ・おしゃべりバスのサービスがあることを知らなかった。回数を週1回などに増やしてはどうか。
- ・おしゃべりバスがあるのを知らなかった。これから利用しようと思う。このバスはできるだけ国道の旧道(町中)を通ってくれるように頼みます。また、運転手は人命に関わり重要なので60歳までの若い人を選んでください。

- ・福祉バス等の回数を増やす。移動販売車の実施等々。町内にスーパー等があれば他の市町村に買い物に行く回数が減るのでは。町内で買い物ができる外出支援サービスを行う必要があると思う。
- ・お年寄りがスーパーに買い物に行けるよう、月1回でもバスを出してください。今は中山だけ毎月1回となっている。他の部落の人も行けるようにしてもらいたい。
- ・おしゃべりバスを唐浜地区でも運行すべき。
- ・おしゃべりバスは、有料でもよいので、週2回くらいに回数を増やすべき。
- ・福祉バス（おしゃべりバス）が運行されているようですが、一定の場所だけでなく、利用したい人がいる場所を調査して、家の前を通るようになると思う（1週間に1回位）。
- ・今は私が知っている限りでは中山地区だけみたいですので、町内の人も使えるように回って欲しいです。

◇ スクールバスの活用

- ・スクールバスを有効利用して、町民の移動手段確保につなげてはどうか。
- ・スクールバスの空いた時間に運行して、有料にしたらいいと思う。
- ・安田町内は路線バスの停留所まで2〜3キロの集落は4ヶ所ある。バスで病院へ10キロなので合計13キロくらい。私たち夫婦は今、自分で運転しているが、1〜3年後は難しいと思う。町の負担にも驚いています。スクールバスの時間外利用に合わせて、定められた通院、月1〜2回の利用はどうかと思う。毎日の利用は少ないと思う。その他の急用はタクシーに頼るしかないでしょう。（以下別紙記入事項：安田町最北端の家は町役場より約15キロくらいですが、路線バス沿いで、利用可能です。バス停まで3〜4キロの集落の多くが町政にも負担をかける問題だと思います。町当局が公共交通への負担をしていることを知り驚いています。現在使われているスクールバスや健診送迎バスの利用を3〜4回利用させてもらえないかと思います。スクールバスも人数がぐっと減っているようですので、小型化も思ったりします。例えば第1、第3火曜日にE集落経由でA集落、B集落を運行し、第2、第4火曜日にE集落経由でC集落、D集落を運行とか。住民は合せていきたいです。E集落には通院にタクシーを利用している人もいます。あまり多く運行していただいても利用は少ないと思います。通院の時買い物はします。無駄のないよう住民は合わせていきたいです。急用の人はタクシー、その他考えるでしょう。上記よろしくお願いします。）
- ・駅まで歩くのが困難な者のために、便利な、循環バスの整備をしてほしい。現在住んでいないのでよくわからないが、スクールバス（小学校・保育所）を併用するとか、行事（住民健診とか）ごとなどの活用ニーズの高い事柄との組み合わせは考えられないものか。

◇ タクシーの活用

- ・乗り合いタクシーの定期的運行の検討。

- ・将来は、通院用乗り物、買い物用の乗り物を、週何回かマイクロ型タクシーで送迎すればよい。

◇ 公用車の活用

- ・公用車の有効活用。
- ・町所有車による移動手段の確保。

◇ 曜日運行による運行

- ・週に1回～2回、行先を決めて乗り合いで運行するようにできないだろうか。
- ・移動販売のように曜日で車を利用できれば、生活に定着できるかも。通院にも利用しやすくなるのでは。
- ・今の所運転可能なので心配もしていないが、曜日、時間を決めて運行してくれる交通機関が計画できればこれに超したことはなし。その際、低料金または、チケット等、前もって代金で買い取っておく方法が望ましい。
- ・曜日を決めてぐるりんバスを運行すると思う。

◇ 予約型による運行

- ・デマンドバス、デマンドタクシーを導入するなどの工夫で支出の増加をできるだけ抑える（多少の増加は認めるが、条件付きで）。タクシー券を配布するなどし、支援対象を外すのはだめだと思う。
- ・バス停や駅は徒歩圏内にあるが、バスについては運行時間の設定が重要になってくると思う。町内の交通事情を考えれば、デマンドタクシーが有力だと思うが、コミュニティバスとの併用も必要かと思う。
- ・生活に必要な買い物などに自転車で隣町まで行っているが、天気の悪い時には行けない。また高齢になると難しくなる。デマンドタクシーのように、事前予約により週数回くらい、近距離の移動手段を確保できればと思う。
- ・ミニバスで予約制。
- ・町内巡回バスを走らせてほしい。乗りたい人は前もって連絡しておく。

◇ 予約型と路線定期型の組み合わせ

- ・バス停や駅は徒歩圏内にあるが、バスについては運行時間の設定が重要になってくると思う。町内の交通事情を考えれば、デマンドタクシーが有力だと思うが、コミュニティバスとの併用も必要かと思う。
- ・町内のタクシー会社、県東部交通との利用時間の調整や安田地域、中山地域の利用内容を検討してより身近な対応をする（バスとデマンドバスなどの統合運営）。

◇ NPO や民間事業者(町内)への委託

- ・車を持っている人はその維持にお金がかかり、持っていない人も移動にお金を払うのは仕方がない。ただバス停や駅まで遠いところに暮らす人もおり、お年寄りなどは特に困るので、その部分を町内事業者で対応できるようにできないか。せつかく公共交通に負担金を出しているのだから、車のない人にはバスや鉄道を使ってもらいたいと考える。
- ・民間企業への委託を行う（タクシー会社、企業等へ）。

◇ 地域による運行、運営

- ・住民同士による助け合い型の移動手段を考えてはどうか。費用面・安全面で問題はあろうと思うが、地域性を生かした方が、より質の高いサービスになると思う。
- ・高齢になり車を運転できなくなる人が増えている。集落単位で車を安全に運転できる人が、隣の人々を誘い合う。（だが事故を起こした時に大変なことになる）
- ・法律の問題もあるが、隣人の白タク（ボランティアかつ無料でない）のような地域内での助け合いができるようにしてはどうか。タクシーより利便性もよいし、無料なら頼むのも気が引けるが、タクシーより安価なチップ代金で便乗させてもらうことが制度的にできればよい。

◇ 安い移動手段の整備

- ・タクシーよりも安く、簡易に使える交通手段を考えるとよい。
- ・通院に片道2,300円程かかるため、支出額が大きく困っている。負担の少ない交通手段を考えてもらいたい。
- ・ミニバン位まで小さい車で集落から駅とか商店街とかの間を、できれば1時間に1本くらい回ってくれれば？タクシー会社へ委託して安い料金（100～200円程度）をとるようにすれば、利用されるのでは。他町村はどのようにしているのか。
- ・バスは路線配置の問題（全家庭の家の前を通るわけにいかない）や、収支の問題があるので、難しいと思う。町内で乗降する場合は、1回数百円にするなど、タクシーをもっと活用すればよいのではと思う。
- ・高齢者が買い物や病院に行くのに、もう少し便利で格安に移動できないか。

◇ 広域的に検討すべき

- ・町運営のバスをもっと活用し、中芸地区と連携し、交通手段の幅を広げて欲しい。
- ・町内だけに限定した公共の移動手段では役に立たないと思う。日常生活上の買い物など町内では、全て済ませられないから。他町村と合わせて、合同で運行ができるとよいが。
- ・中芸広域連合として考える時ではないか。
- ・安田町だけでは補いきれなくなるため中芸を視野に入れて検討してみてもどうか。
- ・町運営のバスをもっと活用し、中芸地区と連携し、交通手段の幅を広げて欲しい。
- ・町内に核となる商店がなく、他市町村への移動が必要で、安田駅を中心とした交通移動手段が必要である。

- ・町内もしくは中芸広域などで独自の停留地を設けて使い勝手の良さをPRする。
- ・安田町のみで対応すべきなのか。県や近隣市町村と一緒に検討すべきではないか。

◇ タクシーの料金補助

- ・町内ハイヤー会社を安価で利用できる回数券的なものを作って発売し、その券発行に町が経費負担する。
- ・町民町内無料タクシー（公共機関・医療機関などへの利用に限定）の設定。
- ・現在、父が月1回タクシーで病院に通っているが、足が悪く長距離を歩けないのでタクシーが必要。数人で利用できるなら経済的な負担も少なくなると思う。
- ・自己の都合でいつでも利用できるタクシーが最も便利だと思う。料金的にはコスト高になるので従来の料金よりも低い料金で利用できるチケットを導入できるようにしてもらいたい。
- ・月に何回かタクシーチケットを交付する。
- ・タクシー会社と連携し、利用する毎に補助金の支出による支援をしたらいいと思う。
- ・現在、町内の移動手段はバスしかない。中山間地の方が困っていると思われるが、タクシー券の発行くらいしか考えられない。
- ・タクシーなどを含めて利用に応じる補助金の支給などをするべきである。
- ・高齢者に町からハイヤー券を7000円分もらっているが、独居老人で車もない人に対して金額を増やしてほしい。不意の病気になった場合、乗り合いバスがなければ行けないし、救急車で行くほどのことでもない場合に2回往復するとなくなる。
- ・鉄道、バスは不便。町の補助でタクシーを安い運賃に。
- ・町内を走るバスを運行する方法は良いと思いますが、経費面から難しいかと思います。中野ハイヤーや安田ハイヤーに協力してもらい、交通費を町が負担するタクシーなどあれば良いですが、財政面がきびしいですかね。

◇ 福祉的な移動サービスの確保について

- ・歩行が困難になったり、車の運転ができなくなったりした場合、銀行や役場、買物等に利用できる低料金のタクシーのような、町内や中芸地区内だけの公共路線バスができればと思う。そのバス停はなるべく家から徒歩数分、杖をついてなんとかたどり着けるよう、たくさん作ってもらいたいと思う。歩行器ごと乗れて、さらに望むことができれば、乗り降りを見守ってくれるヘルパーさんがいたら安心できる。
- ・買い物に行ったりするのに福祉バスみたいなものを多くしてほしい。
- ・福祉タクシーの継続。
- ・運転は不可能であるけれど動ける人が、室内のみでの生活では他の心配もできるし、たまに自分自身で買い物をし、他の人との交流も必要だと考える。しかしそれすらできない（外出不可能な）方の買い物を運転手または、誰か付き添い人が代わって買い物をしてくれるといった事も必要ではないでしょうか。

◇ その他の方法

- ・津野町で実際走らせている、トクトクなどの運行。
- ・タクシーの利用は費用が大きい。ピンポイントで2度も3度も乗り換えせずとも目的地に近い地点まで行ける（乗り合いとか）のが理想です。
- ・大型バスではなく、小型自動車の乗り合いのような運行方法が、小回りが利くのでいいと思います。
- ・せっかく工科大学の皆さんが検討してくださるので、バスもいいですが、ちょこっと車（ひとりでも乗車できる）が循環してもいいのでは？

◇ 整備をするにあたっての意見

- ・どのサービスも時間をきっちり決めて運行すれば、利用状況が把握できる。利用頻度の低いところは、運行回数を減らすとか、多い時間帯に変えてもらうとかする。タクシー券など配らずに町内の公共交通の利用のために回したらいいと思う。
- ・近い将来、自動車の運転が困難となる。個人の移動手段の確保は、重要な課題となる。利用者がある程度経費負担することも考慮して対策を立てる。
- ・原則個人を対象とせず、利用者を団体（老人クラブ等）、地域等の単位で捉え、利用効率の高い移動手段を検討すべきではないか。
- ・バス、鉄道はこれ以上人口減にならないためにも必要でしょう。
- ・高齢者が住みやすい地域であることを望みます。そのためのサービス提供は必要だと思います。でないと誰もいなくなります。
- ・支出は、町が増加しても出すべきと考える。町は、町民の生命と財産を守るためである。
- ・個別交渉にて負担率頻度に合わせて運賃を決定しては。パターン化は不可能。
- ・新しい移動手段を整備するにしても、ある程度（収入に応じてでも良いと思いますが）何らかの算定方法で、ある一定の限度額枠内で利用者さんにも負担してもらう。安田町の財政が破綻しないようにしなければと考えています。
- ・支出の増加も仕方ないと思うが、町の財政の厳しさもわかる。
- ・費用負担はやむを得ないが、増加は無制限ではない。線引きも必要。
- ・手段のない者は生活難民になるし、平等から考えると、経費の不公平さも出てくるので難しい問題。
- ・利用することにより町の活性化にもつながり、経済も回る。
- ・予算のことはわからないのですが、「町の職員も配置してプチ手続きができる」、「食事や健康相談などができる」、「買い物を1か所でできる空間」を安田町に作り、循環バスで行き来し、売り上げや従業員も確保しては？
- ・補助金制度を作る。
- ・具体的に公共交通を新たに整備したり、大幅に使用しやすく変更したりすることは難しいと思うので、一定年齢の人に対して使用に応じた補助金を支払うことで賄うことが現実的だと思う。
- ・安田町としてはこれ以上の負担は避けたいと思う。国の助成金をもらうべきだと思う。

■ 買い物対策について

◇ 移動販売の実施

- ・お年寄りの方が生もの（お刺身）を食べたいけどなかなか買い物に行けないという声を聞きます。月1回くらい移動販売はどうでしょうか？
- ・買い物するところがない。移動販売車を場所と時間を決めて町が運営してはどうか。
- ・食品、食材の買い出しについては、JAの移動販売を充実する。
- ・私としては、今は別に困っていることはないが、この先、高齢化して買い物などに困らないように軽トラなどで商品を積んで、週に2回ほど町内を巡回してくれたらありがたいし、助かります。運転手さんとも顔なじみになったら次に来てもらう時の注文もできたりして。
- ・今ある公共交通の手段は、最低でもなくすようなことはせず、温存していくようにしてもらいたい。移動手段がなくなるのであれば、移動販売などの商業車などの導入などを週1回程度、取り入れてもらうなどしてもらいたい。
- ・食料については、全部落を移動販売してもらいたい。現在一部している。
- ・食料の購入で、移動スーパーがあればよいと思う。歩行が困難なものには、昔ながらの御用聞きのようなものがあればいい。
- ・車を運転できなくなって、買い物、病院への通院で困った。日常の生活用品は、週2日～3日程度移動販売車が家の近くまで来てくれるとありがたい。
- ・高齢者、障害者のために移動スーパーを作ってください。
- ・昔のように移動販売とか来るようになれば利用したい。
- ・現在のところ、車で買い物には行けるが、高知市内の場合、移動スーパーがあります（県外のようにコンビニでの配達など）。

◇ 買い物バスの整備

- ・大型の買い物バスなど。
- ・私は高知市内に住んでいましたので、1つの例として、スーパー店の負担か市の補助金で送迎車を出していました。自分がその場面を見て、これは高齢社会にいいなと思いました。（高知市瀬戸のサンシャイン）
- ・移動販売車の実施等々。町内にスーパー等があれば他の市町村に買い物に行く回数が減るのでは。町内で買い物ができる外出支援サービスを行う必要があると思う。

◇ その他の買い物対策

- ・買い物については、移動販売の充実や宅配サービスなど他の対策も考えられる。

■ 移動手段確保に関するその他の意見について

◇ 移動手段確保に関する不安

- ・今は車で何でもできているけど今後何年先か分からないけど運転できなくなったらすごく困ると思う。どうなる事やら。
- ・一人なので、不安や心配。考える。
- ・自家用車の運転ができなくなるかもしれない事が不安。
- ・近い将来の移動手段に不安を感じています。特に通院と買い物に困ると思っており、今から不安です。
- ・車利用しての買い物方法しかないので、将来が心配です（町内で買いたいものがないため）。

◇ 意見

- ・安田町は、駅が町より北へ数キロあるので、町民は汽車に乗らない。人が多いバスも1時間以上待つので、あまり利用しないようです。いろいろなことがあっても町は資金を出すべきである。
- ・移動手段の確保は重要で、支援はバランスが必要。（人口減、高齢者の人口は増）安田町内でも中山地区より奥は、自動車のない生活は考えられない。移動手段を持たない者のことも考えるべきだ。
- ・高齢になれば、通院の手段が不安になる。免許証を返上した時にタクシーに頼ることになると思われるが、町の支出も増えると考えるといいアイデアがない。
- ・今後老人が多くなるので、経費がかかっても、移動手段を確保するべきである。
- ・自家用車かタクシー以外考えられない。
- ・一台の車を二人で使っているのに時間的に使えないときもあり、役場、輝るぽーと安田、郵便局などに行くときは歩いています。坂がきついので自転車も使えない。安田町は奥に長いので役場に来るのも大変だなと思います。今年知り合いが骨折し病院、美容院、買い物などに車で送迎した。事故になったら命が関係するので怖いけれど。体が不自由になると「バスに乗るのも大変」と言っていました。
- ・病院の通院についても、片道の利便を考えても、片道はタクシーになる。
- ・経費の上限がなければ、いろんな方向性がある。同じ地区は日本中に多々。過疎化地域に多いと思うので、そちらも参考にできないかと思います。
- ・高齢者が多くなると、人も動かなくなり、お金も動かなくなる時代がやってくる。そのような現象が起こらないよう希望したい。
- ・今は自分で運転できているが、もうすぐ運転できなくなった時を想定すると、公共交通サービスの移動手段に頼るしかなくなる。バランスを見ながら支援をしてほしいです。
- ・今後、車の運転ができなくなった時、高知市内など定期受診のためにタクシー利用するには負担が大きいので、ぜひ鉄道を残してほしいと思います。
- ・車の免許証が31年8月まで使えるけれど、それからはバスやハイヤーを使うようになると思います。

- ・今は自家用車で移動しています。将来的にはどうなるか断言はできませんが自分のことはなるべく自分でする事を考えています。
- ・鉄道、バス関係がどのように使われているのか分からないのでなんともいえない。
- ・高齢者が病院に行く時間が確保できない。通勤、通学が主体である。

◇ 要望

- ・山間部の高齢者の病院や買い物等、生活に密着したきめ細やかな支援を望む（特に通院等について）。公共交通手段でカバーしきれない地区に居住する人たちの交通手段について手厚い支援を望む。
- ・来年3月から車に乗れなくなるので、できたら公的な物が使用できたら嬉しい。
- ・駅やバス停までが家から遠いので町内を巡回する移動手段があるといい。
- ・75歳で免許証を返納しようかと思っているので、足を確保するために車、バス、鉄道の負担を少しみてもらいたいと思っております。
- ・選挙の時、1日2回位、町の車を出してくれるとよいと思います。
- ・車イスで乗れる介護の交通手段が欲しい。
- ・車も乗れないお年寄りにもう少しサービスしてほしい。公共サービスをしてほしい。
- ・自宅前にバスは来ていないので、通ってほしい。
- ・バス停等からの家までの交通手段を考えて欲しい。
- ・町内の道路をくまなく走って欲しい。
- ・サンシャインゆい店、マルナカ、病院への移動に困る人たちへの方法を考えてほしい。
- ・高知市内へ移動時間が30～45分以内になれば安田からの通学・通勤ができます。今は高速道ができて、四国から関西、東京への出張が、昔なら2～3日かかっていたのが今は1日で帰る（サラリーマンの出張ですが）時代です。元気な安田町になるためにも、中からも外からも検討をお願いします。
- ・バス高知直通が欲しい。

◇ 提案

- ・人口減少や高齢化が進行する為、移動手段は不可欠。利用の呼びかけをすればいい。「月に1回以上利用しましょう」と。
- ・おしゃべりバス等のことは知らない。もっと町民に知ってもらわないと、どのような活動をしているか分からない。
- ・民活の白タクなどの導入を検討すべき。
- ・先日車が故障し、受診日が変更となった。その時の移動手段について不安と困惑で、近い将来が心配になりました。公共交通を利用する場合、その地点までの距離、その後の目的地までの移動（乗り継ぎ）など、未体験の私には非常に不安。
- ・現状問題はないが、将来運転ができなくなった場合、通院などは毎日でなければ何とかなるが、日々の生活用品などの購入に不安がある（近くに輝ぼーと安田もあるが、すべてのものが購入できるわけではない）。

- ・近い将来、移動手段確保に大きな不安を感じている。
- ・運転ができなくなった場合、病院や買い物などの移動について不安がある。
- ・現在困っている事はない（運転できているので）。高齢者の運転での問題点が浮上しているのも明日は我が身と考え、いつまで自由行動が可能かを考えると単身生活であることに不安を感じる。
- ・自分で自転車が運転できなくなると買い物に行けなくなる。

■ 移動手段確保以外の内容

◇ 人口増加について

- ・高齢者の増加だからこそ、都会からの若者の I ターン者を取り込む町づくりをすべきと思う。安田町には素敵なところがいっぱい。栄峯、大野大地、神峯寺などすばらしいところを中心に町づくりを進めて町の発展を願う。
- ・人口の半分には対応できる高齢者福祉施設を近代的なものを作り、安田町へ他の地域からも入所できるようにして活性化を図っていただきたい。今後は高齢者に優しい町づくりが大切に思います。

◇ 町設備について

- ・安田町にはスーパーがないので他の町に行くしかない。輝るぼーと安田をもう少し充実して欲しい。町外へ行く回数が減らせる。
- ・歩行困難者のため要所要所に休むことができるベンチを設置して欲しい。
- ・街灯をもう少しつけてほしい。

◇ 買い物などに関する意見や要望

- ・唐浜にローソンができたけど町外れにある。安田へは一括で済ますため用事を集めて行く。局も農協も美容院もあるので自転車にも乗れなくなったものはダメ。病院へ行く日に用事を集めて車で送ってもらう。
- ・店舗がなさすぎ。将来を見据えると不安。病院(例えば大野台地に老人施設を誘致するとか)も近くに近く、便利なところに転居を考えている。東部を若者も高齢者も住みやすい街にするべきである。
- ・安田町にスーパーがあればよい。輝るぼーと安田は買う品物が少ない。安田町内の商店はやめる店が多い。
- ・安田町にはお店が少ないので大変です。
- ・子供などがいないため、将来、運転ができなくなった時の移動が不便になる。輝るぼーと安田はあるもののスーパーが町にはないので、衣料品や日用品を買うのに不便。
- ・スーパーや買い物をするところがない。
- ・安田町には買い物する場所もないし、田野町、奈半利町に買い物に出かけなければならない状況です。町外に行かざるを得ません。町内にスーパーを作ってください。

- ・町内で、買い物や病院があまりよくないので、田野町みたいに町内バスをやっても利用価値がないため他に何も考えつかない。鉄道もバスも歩いては乗りに行けない。
- ・やがて自動運転の車が出てくると思います。生活上必要な外出は将来、病院、スーパー程度になりそうで歩いていく範囲にそういった施設があればよいと思う。
- ・スーパーやドラッグストアが町内にないため、徒歩や自転車で買い物に行くということが現実的に考えられない。自家用車が移動手段として使用できない者にとっては、移動することが非常に難しいだろうと思う。
- ・町内の薬局などをなるべく利用していますが、大量に買い物など少しでも安価に求めたいときは残念です（町内にドラッグストアなどが無いので）。
- ・安田町はスーパーがないので買い出しができなくなくなる。車もなく運転できないと大変だと思う。
- ・近所にスーパーがないため、田野町などに行かなくてはならない。車を乗らない（乗れない）人が困っていると聞いたことがあり、この町でこの先、年を取っていくのは不安がある。安田町にもA-Maxみたいな大型スーパーが欲しい。
- ・高齢化が進行するが買い物(生活用品)しやすい施設がない。
- ・主に食料入手だと思うので、手近に買い物施設があればよい。
- ・自宅から買い物するところが遠いので、近くにお店が欲しい。
- ・生活用品取り扱い施設（コンビニと地場産品販売と一か所集中してほしい。それに便利ないようにして、手段を確保する。
- ・やはり衣食住に関しては、スーパーが必要であります。さらに高齢の世代が多くなってきているので、不自由を感じます。
- ・町内の商店活性化が必要だと思う。
- ・(困っている事として) 自転車利用のため、コンビニが唐浜に新設されましたが自宅からやや遠い。スーパーがないため、他の町へ行かざるを得ない。各銀行、四国銀行とJAのATMでは小銭が入金できない(ゆうちょは可)。(新しいサービス提案として) 銀行各店舗がなくても平日は小銭入金サービスをして欲しい。JAでコピーできれば良い。
- ・高齢者が移動するのが難しい場合、商品の宅配や往診などの充実も視野に入れたらよいと思う。
- ・高齢者が移動するのではなく、在宅医療とか生活必需品を家に届ける手段を考えた方がよいのでは。

◇ 道路整備に関する要望

○ 一般道路について

- ・狭い道を広げ、信号をつけること（事故の多いところを直す）。
- ・道が狭い。(1.5車線ではなく2車線化を)。
- ・自分の住んでいるところは山間部で、山くずれなどが数年に一度発生することがあり、国道の向かい(旧森林鉄道路)の道の整備を高齢者が困らないように進めて欲しい。
- ・道に穴が空いたり、凹んだりした道はすぐ直して欲しい。

- ・自転車でも安心して移動できるように、でこぼこを直して欲しい。
- ・県道の安全性向上に取り組んで欲しい。
- ・旧道から国道に出る時、交通量が多くなかなか国道に出ることができない。
- ・馬路線の道路整備（2車線化）。災害などで道が遮断されやすい。
- ・地震が来た時の交通道路の整備。
- ・道が狭くて、車の行き違いがしにくい。夜も道が暗くて、危ない。もっと明るくした方がいいと思う。
- ・道路が狭く、すれ違いができない道路が多い。バスが進入できない。
- ・県道1本がすべて。この県道もだんだん傷んできているのを毎年少しずつ感じています。まずは利便性の前に安全の確保が何より必要かも。

○ 高速道路整備について

- ・高速道路の整備。若者を定住させるためにも高齢化にも役立つ（遠くの家族が来やすくなるから）。
- ・高知市内までの通勤がしやすい高速道路を早く実現してほしい。
- ・奈半利町から芸西村の高速道路が欲しい。
- ・東部自動車道（安芸自動車道）を早く進めてもらいたい。

◇ その他の意見

- ・特に遠いところに暮らす人が対象になると思うが、車を持っていない人とか、高齢者とかをもっと具体的に調べることも必要ではないか（特に高齢者宅へのアンケートは返ってこないのではないかと心配されるので。人口も減ってきたので、職員が例えば70歳以上の家を直接回って話を聞くとかすれば、町民の心配事がわかってくると思うし、住民との意思疎通が図られると思う）。
- ・ペタンクをやっている。県内の大会はもちろん県外へも遠征をしている。友人の自家用車で行く。ありがたいことだと思っている。サイクリングもしている。県外へも行く（ファン・ライドなど）。これらペタンク・サイクリングができなくなったり、県外へ行けなくなったりしても僕は嘆くことはない。自分がどの年齢にいるか、わかっているから。家で楽しむことをする（読書・音楽）。
- ・将来介護施設に入れるのか？
- ・誰かに頼るのが苦手なため、自分のことは自分での気持ちはまだある。
- ・自分たちだけよくてもいけない。
- ・このアンケートは、遠方で暮らす家族が記入しています。高齢の一人暮らしなので、この文章の意味も分からないような気がします。反対に困惑することもあると思われれます。
- ・町職員の教育と人間性を教える。全国の市町村を学ぶことをする。
- ・災害時に避難指示などが出たとき、1人では家から避難場所に行くことができない。
- ・車いすの移動ができていない。
- ・アンケートを書いてもただ参考にするだけで、後の結果が出ない。

